

# 官報

號外 昭和十三年三月九日

## ○第七十三回衆議院議事速記録第二十五號

帝國議會

昭和十三年三月八日(火曜日)

午後一時二十二分開議

議事日程 第二十四號

昭和十三年三月八日

午後一時開議

第一 臨時通貨法案(政府提出)

第一讀會

第二 關稅定率法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第三 飼料配給統制法案(政府提出)

第一讀會

第四 農地調整法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

昭和十一年度第一豫備

金支出ノ件

昭和十一年度特別會計

第一豫備金支出ノ件

昭和十一年度特別會計

豫備費支出ノ件

昭和十一年度滿洲事件

第一豫備金支出ノ件

昭和十二年度第二豫備

金支出ノ件

昭和十二年度特別會計

第二豫備金支出ノ件

昭和十二年度特別會計

豫備金外ニ於テ豫算超

過及豫算外支出ノ件

承諾ヲ  
求ムル

(左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲

茲ニ掲載ス)

一 議員ノ異動左ノ如シ

福島縣第一區選出議員菅野善右衛門君退

職者トナリタリ

一 政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

關稅定率法中改正法律案

飼料配給統制法案

(以上三月七日提出)

一 昨七日貴族院ニ於テ本院ノ送付ニ係ル左

ノ政府提出案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通

牒ヲ受領セリ

昭和十三年度歳入歳出總豫算案並昭和

十三年度各特別會計歳入歳出豫算案

豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲

スヲ要スル件

一 議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

日本發送電株式會社法案ニ對スル修正案

提出者

窪井 義道君 青木 精一君

金錢債務調停法中ニ人事調停制度制定ニ

關スル建議案

提出者 北原阿智之助君

宮林線鐵道速成ニ關スル建議案

提出者 陣 軍吉君

汚水防止ニ關スル建議案

提出者 坂下仙一郎君 高木泰太郎君

商工省ニ自動車局設置ニ關スル建議案

提出者 山田 清君

軍友會ヲ系統的團體ニ組織方斡旋ニ關ス

ル建議案

提出者 伊藤東一郎君 大野 一造君

片岡 恒一君

補償生絲一掃ニ關スル建議案

提出者 長谷 長次君 喜多壯一郎君

長谷 憲三君

占據地國民ニ人絹布製日滿支國旗掲揚方

ニ關スル建議案

提出者 長谷 長次君 喜多壯一郎君

長谷 憲三君

國旗ニ關スル法律制定ニ關スル建議案

提出者 青山 憲三君 喜多壯一郎君

國旗地質制定ニ關スル建議案

提出者 匹田 銳吉君

樋口善右衛門君 小笠原三九郎君

宮本雄一郎君 加藤 知正君

羽田武嗣郎君

雪害防除施設費補助ニ關スル建議案

提出者 藤井 浩然君 加藤 知正君

三宅 正一君 松木 弘君

小笠原八十美君

園部福知山間省營自動車運轉開始促進ニ

關スル建議案

提出者 田中 好君 芦田 均君

直江津港修築ニ關スル建議案

提出者 羽田武嗣郎君 丸山辨三郎君

植原悅二郎君 武田徳三郎君

松木 弘君 加藤 知正君

名古屋帝國大學設立ニ關スル建議案

提出者 服部 英明君 服部 崎市君

大口 喜六君 岡本實太郎君

小笠原三九郎君 大野 一造君

渡邊玉三郎君 加藤 鯛一君

塚本 三君 內藤 守正君

山崎 常吉君 安藤 孝三君

椎尾 辨匡君 樋口善右衛門君

杉浦 武雄君 鈴木 正吾君

(以上三月七日提出)

一 議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ

如シ

新潟縣下雪害豫防救濟ニ關スル質問主

意書

提出者 今成留之助君 佐藤 與一君

増田 義一君 小柳 牧衛君

川合 直次君

(以上三月七日提出)

一 昨七日第四部選出建議委員菅野善右衛門

君ハ退職者トナリタリ

一昨七日常任委員補關選舉ノ結果左ノ如シ  
第四部選出

豫算委員 小山 谷藏君 (田中万逸君  
補關)

一昨七日委員長及理事互選ノ結果左ノ如  
シ

農業保險法案(政府提出)委員

委員長 村上 國吉君  
理事 土屋 寛君 長野 綱良君  
坪山 徳彌君 馬岡 次郎君  
石坂 繁君

一昨七日特別委員理事補關選舉ノ結果左ノ  
如シ

重要礦物増産法案(政府提出)外一件委員

理事 高島龜太郎君 (理事瀧澤七郎君  
補關)

一昨七日委員辭任ニ付其ノ補關)

重要礦物増産法案(政府提出)外一件委員  
辭任松永 義雄君 補關川俣 清音君  
辭任瀧澤 七郎君 補關高島龜太郎君  
社會事業法案(政府提出)外二件委員  
辭任松本治一郎君 補關川村保太郎君  
辭任瀧本 太吉君 補關松浦 伊平君  
商法中改正法律案(政府提出、貴族院送  
付)外二件委員  
辭任木村作次郎君 補關紅露 昭君  
辭任高橋 泰雄君 補關牧野 賤男君  
昭和十二年法律第九十二號中改正法律案  
(輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル件)  
(政府提出、貴族院送付)委員

辭任小林房之助君 補關原 玉重君

○議長(小山松壽君) 是ヨリ會議ヲ開キマ  
ス

○服部崎市君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ  
提出致シマス、即チ此際第二號、昭和十  
二年度歳入歳出總豫算追加案、特第一號、  
昭和十二年度各特別會計歳入歳出豫算追加  
案、追第一號、豫算外國庫ノ負擔トナルベ  
キ契約ヲ爲スヲ要スル件、臨第一號、臨時  
軍事費豫算追加案、第一號、昭和十三年度  
歳入歳出總豫算追加案、特第一號、昭和十  
三年度各特別會計歳入歳出豫算追加案ノ  
六案ヲ一括議題ト爲シ、委員長ノ報告ヲ  
求メ、其審議ヲ進メラレントラ、望ミマ  
ス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異  
議アリマセヌカ  
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ  
ス、仍テ日程ハ變更セラレマシク、第二號、  
昭和十二年度歳入歳出總豫算追加案、特第  
一號、昭和十二年度各特別會計歳入歳出豫  
算追加案、追第一號、豫算外國庫ノ負擔ト  
ナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件、臨第一號、  
臨時軍事費豫算追加案、第一號、昭和十三  
年度歳入歳出總豫算追加案、特第一號、昭和  
十三年度各特別會計歳入歳出豫算追加案、  
右六案ヲ一括シテ議題ト致シマス、豫算委  
員長ノ報告ヲ求メマス——豫算委員長田子  
一民君

(第二號)昭和十二年度歳入歳出總豫算  
追加案 (委員長報告)

(特第一號)昭和十二年度各特別會計歳  
入歳出豫算追加案 (委員長報告)

(追第一號)豫算外國庫ノ負擔トナルベ  
キ契約ヲ爲スヲ要スル件 (委員長報告)

(臨第一號)臨時軍事費豫算追加案  
(委員長報告)

(第一號)昭和十三年度歳入歳出總豫算  
追加案 (委員長報告)

(特第一號)昭和十三年度各特別會計歳  
入歳出豫算追加案 (委員長報告)

報告書  
一(第一號)昭和十二年度歳入歳出總豫算  
追加案  
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致  
候此段及報告候也  
昭和十三年三月八日  
豫算委員長 田子 一民  
衆議院議長 小山松壽殿

報告書  
一(特第一號)昭和十二年度各特別會計歳  
入歳出豫算追加案  
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致  
候此段及報告候也  
昭和十三年三月八日  
豫算委員長 田子 一民  
衆議院議長 小山松壽殿

報告書  
一(追第一號)豫算外國庫ノ負擔トナルベ  
キ契約ヲ爲スヲ要スル件  
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致  
候此段及報告候也  
昭和十三年三月八日  
豫算委員長 田子 一民  
衆議院議長 小山松壽殿

報告書  
一(臨第一號)臨時軍事費豫算追加案  
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致  
候此段及報告候也  
昭和十三年三月八日  
豫算委員長 田子 一民  
衆議院議長 小山松壽殿

報告書  
一(第一號)昭和十三年度歳入歳出總豫算  
追加案  
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致  
候此段及報告候也  
昭和十三年三月八日  
豫算委員長 田子 一民  
衆議院議長 小山松壽殿

報告書  
一(特第一號)昭和十三年度各特別會計歳  
入歳出豫算追加案  
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致  
候此段及報告候也  
昭和十三年三月八日  
豫算委員長 田子 一民  
衆議院議長 小山松壽殿

報告書  
一(追第一號)豫算外國庫ノ負擔トナルベ  
キ契約ヲ爲スヲ要スル件  
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致  
候此段及報告候也  
昭和十三年三月八日  
豫算委員長 田子 一民  
衆議院議長 小山松壽殿

報告書  
一(臨第一號)臨時軍事費豫算追加案  
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致  
候此段及報告候也  
昭和十三年三月八日  
豫算委員長 田子 一民  
衆議院議長 小山松壽殿

報告書  
一(第一號)昭和十三年度歳入歳出總豫算  
追加案  
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致  
候此段及報告候也  
昭和十三年三月八日  
豫算委員長 田子 一民  
衆議院議長 小山松壽殿

報告書  
一(特第一號)昭和十三年度各特別會計歳  
入歳出豫算追加案  
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致  
候此段及報告候也  
昭和十三年三月八日  
豫算委員長 田子 一民  
衆議院議長 小山松壽殿

(田子一民君登壇)

○田子一民君 只今議題トナリマシタ豫算追加案五件及ビ豫算外契約一件ニ付キマシテ、委員會ニ於ケル審査ノ經過並ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、臨時軍事費豫算追加案ハ、支那事變ノ推移ニ伴フ必要經費ヲ追加シタノデアリマシテ、其金額ハ歳入四十八億八千六百五十餘万圓、歳出四十八億五千

万圓デアリマス、其歳出ノ内譯ハ、陸軍臨時軍事費三十二億五千七百圓、海軍臨時軍事費十億四千三百萬圓、豫備費五億五千萬圓デアリマシテ、陸軍臨時軍事費ハ遣外部隊ノ維持、作戰資材ノ應急整備、航空要員ノ急速補充、造兵設備ノ増強等ニ關スルモノデアリマス、海軍臨時軍事費ハ遣外艦船等ノ維持、航空、通信、工作、補給等、各種施設ノ急速整備ニ關スルモノデアリマス、右歳出ノ財源ハ大部分公債ニ依ルコトニナツテ居リマシテ、公債金以外ニ於テ一般會計及ビ特別會計ヨリ増税、煙草値上等ニ依ル增收額ヲ受入レ、又通信、鐵道及ビ各地ノ特別會計ヨリノ繰入金其他若干ノ普通財源ヲ充當スルノ計畫デアリマス、第二號、昭和十二年度歳入歳出總豫算追加案、及ビ特第一號、昭和十二年度各特別會計歳入歳出豫算追加案ハ、何レモ緊急已ムヲ得ザル經費ヲ追加致シタノデアリマス、豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ニ關スル件、追第一號ハ、一般會計ノ軍需關係資材確保、損失補償、海軍工廠資金特別會計ノ造船造兵材料購入等ニ關スルモノデアリマス、尙ホ第一號、昭和十三年度歳入歳出總豫算追加

案、及ビ特第一號、昭和十三年度各特別會計歳入歳出豫算追加案ハ、何レモ主トシテ臨時軍事費ニ關聯スル經費ノ追加デアリマス

以上ハ只今上程セラレテ居リマス豫算各案ノ大要デアリマス、是ガ審査ノ爲メ豫算委員會ハ去ル三月一日ヨリ本日迄七回ノ會議ヲ重ネ、又長時間ニ互ル祕密會ヲ開キマシタ、茲ニ委員會ニ於テ現レマシタ質疑應答中、一二ノ重要ナル事項ヲ御報告申上ゲマス

第一ニ今次ノ臨時軍事費追加豫算モ、前回ノ豫算ト同様、是ガ支出ニ當リマシテハ一々閣議ノ決定ヲ經、更ニ勅裁ヲ仰ギテ之ヲ實行スルヤトノ質疑ガアリマシタ、ソレニ對シテ政府ハ其通りノ手續ヲ執ルベキ旨ノ答辯ヲサレマシタ、第二ニ、現ニ提出セラレテ居ル臨時軍事費追加額四十八億五千萬圓ハ、今後何箇月分ノ經費ナルヤトノ質問ガアリマシタ、之ニ對シ今次ノ追加額ヲ以テスレバ、大ナル事情ノ變化ナキ限り、次ノ通常議會マデノ所要ヲ辨ジ得ベシトノ答辯デアリマシタ、第三ニ、今後ノ情勢如何ニ依リマシテハ、今回要求ノ臨時軍事費追加額全部ヲ支出スルノ必要ナキニアラズヤトノ質問ガアツタノデアリマスガ、情勢ノ變化ニ應ジテ必要ナキニ至レル場合ニハ、固ヨリ政府ハ是ガ使用ヲ爲サザル方針ナル旨ヲ言明セラレタノデアリマス、更ニ臨時軍事費追加額ニ伴フ物資ノ需給、國際收支ノ適合、生産力ノ擴充、公債ノ消化、物價ノ歸趨、並ニ滿洲重工業株式會社等ノ問題ニ關

シ、有益且ツ適切ナル質疑應答ガ交換セラレタノデアリマスガ、其詳細ハ速記録ニ依リ御承知ヲ願フコトト致シマス

委員會ハ昨日其質疑ヲ終了致シマシテ、本日前討論ニ入りマシタ、民政黨ヲ代表シテ木村三四郎君、政友會ヲ代表シテ松村光三君、第一議員俱樂部ヲ代表シテ平野力三君、社會大衆黨ヲ代表シテ佐竹晴記君、第二控室ヲ代表シテ椎尾辨匡君、東方會ヲ代表シテ由谷義治君ノ諸君ヨリ、何レモ銃後施設ノ完璧ト、今次戦果ノ確實ナル成果ヲ收ムベキコトヲ政府ニ要望シ、贊成ノ旨ノ發言ガアリマシタ、採決ニ入りマシテ、原案ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ求メマシタ所、起立全員、即チ六案トモ原案ノ通り可決致シタノデアリマス、此段御報告申上ゲマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 是ヨリ討論ニ入りマス——勝正憲君

(勝正憲君登壇)

○勝正憲君 只今議題ト相成ツテ居リマス追加豫算各案ニ對シテ、私ハ民政黨ヲ代表シテ委員長報告ニ贊成スル者デアリマス、豫算各案中臨時軍事費追加案ハ、此度新ニ四十八億五千萬圓ノ追加ヲ計上致シタモノデアリマス、此四十八億圓ノ大軍事豫算ハ、實ニ我國空前ノ龐大ナル軍事豫算デアリマス、我々ハ百万ノ大軍ガ海ニ、陸ニ、全支那ニ轉戦シ、實ニ一國ノ運命ヲ賭セントスル此大戦ニ際シマシテ、硝煙彈雨ノ間、死生ノ巷ニ出入シツ、アル我ガ忠勇義烈ナル百万ノ同胞ニ對シ、少シモ

其協贊ヲ吝ム者デアアリマセヌ、喜ンデ之ヲ協贊セントスルモノデアリマス(拍手)併ナガラ此支那事變ニ對シ吾々ハ既ニ二十五億ノ豫算ヲ協贊致シテ居リマス、前後通計スレバ實ニ七十三億圓餘ノ大豫算トナリマス、我國ノ經濟財政ガ果シテ能ク此巨大ナル豫算ヲ消化シ得ルデアラウカドウカ、我國ノ産業機關ガ能ク此大豫算ヲ完全ニコナシ得ルデアラウカドウカ、此巨大豫算ノ施行ニ際シ、果シテ何等ノ障礙ナク國民經濟ノ健全ナル發展ト調和スルヤ否ヤト云フ點ニ付キマシテハ、吾々ハ幾多ノ疑問ヲ懷ク者デアリマス、吾々豫算委員ハ是等ノ疑問ヲ提ゲテ政府ノ回答ヲ求メ、由テ以テ全國民ト共ニ安心シテ政府ノ措置ニ信頼セントシタノデアリマス、併ナガラ政府ハ作戰用兵ノ機密ノ故ヲ以テ、其具體的ナル説明ヲ回避セラレマシテ、遺憾ナガラ吾々ハ此目的ヲ十分ニ達成スルコトガ出來ナカッタノデアリマス、抑、此四十八億ノ巨大豫算ハ、陸軍費、海軍費及ビ豫備費ノ三本ニ分レテ居ルダケデアリマシテ、其總テガ殆ド一款一項デアリ、勿論其目節ノ區別モアリマセヌ、實ニ流通自在デアリ、加フルニ年度ノ區分モ無く、事件ノ續ク限り何時ニテモ、何時マデモ之ヲ支出シ得ルコトトナツテ居リマシテ、是ガ審議ヲ致サントシテモ、事實上審議不能ニ近イ有様デアツタノデアリマス、然レドモ吾々ハ此重大ナル時局ニ鑑ミマシテ、其質スベキ所ヲモ質サズ、其忍ビ難キ所ヲ忍ンデ、其金額ヲ其儘協贊セントスル者デアリマス、然レドモ吾々ハ此巨大豫算

ノ施行ニ當リマシテ、幾多政府ニ對シ警告シ、要望致サナケレバナラナイ點ガアルノデアリマス

政府ノ説明ニ依レバ、此臨時軍事費ノ財源トシテ、新ニ四十四億圓ノ公債ヲ發行セントシテ居ルヤウデアリマス、昭和十三年度ニ於キマシテハ、既ニ一般會計ニ於テ六億九千萬圓、特別會計ニ於テ一億六千萬圓、合計八億五千萬圓ノ公債發行ガ計畫セラレテ居リマス、之ヲ通計致シマスレバ、實ニ五十二億五千萬圓ト云フ巨額ナル公債發行ノ計畫トナルノデアリマス、昭和十二年度ニ於キマシテモ三十三億九千萬圓ノ公債ノ發行ガ計畫セラレ、今日尙ホ相當巨額ナル公債ノ發行殘額ガアルノデアリマスカラ、此五十二億圓ノ公債ハ大體之ヲ一箇年間ニ發行シナケレバナラナイコトニ相成ルコトト信ジマス、然ラバ此五十二億圓ハ實ニ一箇月四億三千万圓ニ當ルノデアリマス、即チ毎月平均四億圓以上ノ新規公債ヲ、殆ド釣瓶打チニ發行シナケレバナラナイ譯デアリマス、我國ノ市場ハ今後益々巨額ノ軍事費ガ撒布セラレ、是ガソレムノ「チャネル」ヲ通ッテ貯蓄機關ニ還流スルデアリマセウ、隨テ吾々ガ從來想像スルコトモ出來ナカッタ程巨額ナル公債ノ消化力ガ、玆ニ現レルデアラウトハ信ジマスケレドモ、毎月平均四億圓ト云フ公債ヲ發行スルト云フコトハ、決シテ容易ナラザル事デアリマス、若シ一たび其調整ヲ誤レバ、直チニ悪性「インフレーション」ガ起ラストハ、誰ガ保證スルコトガ出來マセウ、政府ハ其市場操

作ニ十分ナル注意ヲ拂ヒ、市場ニ浮動スル資金ト、個人ノ奢侈的消費ノ源泉トナル過剩資金トヲ速ニ吸收スルコトニ努メ、苟モ公債操作ノ失誤ニ依リ、經濟界ニ異常ナル打撃ヲ與ヘザルヤウ、十分ナル注意ヲ拂ハレンコトヲ要望スル者デアリマス(拍手)

我國ノ外國貿易ハ昨年以來甚ダ悪化シテ參リマシテ、現ニ昨年ニ於テハ輸入超過額實ニ六億三千五百萬圓ニ達シテ居リマス、本年ニ入リマシテモ甚ダ樂觀ヲ許サナイモノガアリマシテ、一月、二月ノ累計額ニ於キマシテモ、輸出金額三億六千四百萬圓デアリマシテ、前年同期ニ之ヲ比較シマスレバ、實ニ一億二千万圓ノ激減トナッテ居ルノデアリマス、而シテ三月以降ニ於キマシテモ、其傾向ガ益々甚シカラントスルモノガアリマス、貿易外ノ收支ニ於キマシテ、若干是ハ回復スルカモ知レマセスケレドモ、他面軍需品其他ニ於テ、輸入ハ是レ以上制限スルコトガ出來ナイ有様デアリマスカラ、我國ノ國際收支ハ實ニ非常ニ憂フベキモノガアルノデアリマス、果シテ一志二片ノ爲替水準ヲ、何時迄モ何時迄モ堅持スルコトガ出來ラデアラウカドウカト云フコトヲ心配致スノデアリマス、此重大ナル時局ニ於テ、吾々が最も心配ヲ致スノハ此點デアアルノデアリマス、若シ一たび此爲替水準ガ動搖スルガ如キコトガアリマシタラバ、我國ノ經濟界ハ實ニ恐レベキ混亂ヲ生ズルデアリマセウ、此國際收支ヲ改善シ、爲替水準ヲ堅持スルコトハ、此處大豫算ヲ執行スル上ニ最も要ナル點デアリマス、能ク此國際收

支ノ「バランス」ヲ改善致シマスコトハ、輸入ノ防遏ト輸出ノ増進ト二ツノ方法シカナインデアリマス、而シテ政府ノ爲ス所ヲ見マスレバ、輸入ノ防遏ニ於テハ其手段方法宜シキヲ得ズ、輸出産業其モノニモ著シク打撃ヲ與ヘントシテ居リマス、又他ノ一面ニ於キマシテ輸出増進ノ方法ニ於テ、未ダ十分積極的ナル施設ヲ見ナイノデアリマス、政府ハ深ク此點ニ顧ミ、輸入防遏ノ手段方法ニ十分ナル改善ヲ加ヘ、更ニ進ンデ積極的ニ輸出ノ増進ニ對スル施設ヲ行フコトヲ要スルト認メマス、此點ヲ深ク政府ニ警告ヲ致シテ置クノデアリマス(拍手)

今日ノ非常時局ヲ乘切ル爲ニハ、産業ノ各方面ニ統制ヲ強化シテ參ルコトハ、洵ニ已ムヲ得ヌコトデアリマセウ、政府ハ現ニ資金ノ統制ヲ行ヒ、貿易ノ統制ヲ行ヒ、爲替ノ統制ヲ行フテ居ル、然ルニ其實行シタル跡ヲ見マスレバ、當業者ノ取引ニ多大ナル壓迫ヲ加ヘ、到ル處ニ苦情百出ノ状態デアリマス、其結果折角政府ガ念願シテ居ル所ノ生産ノ擴充其モノニモ、多大ナル打撃ヲ與ヘントシツ、アル現狀デアリマス、輸出貿易ノ伸暢ニモ甚シク打撃ヲ與ヘツ、アルモノデアリマス、私ハ此場合具體的ニ一々之ヲ例示スルコトヲ避ケマススケレドモ、統制ノ方法拙劣ナル爲メ、統制ニ從事シツ、アル官吏ノ熟練ヲ缺イテ居ル爲メ、産業ノ各方面ニ於テ意外ナル打撃ヲ與ヘツ、アルト云フコトハ明カナ事實デアリマス(拍手)

我國ノ物價ハ昨秋以來追々騰貴ノ趨勢ヲ示シテ居リマス、歐米ノ各國ハ何レモ物價漸落ノ步調ヲ示シテ居ルノニ、我國ノ物價ノミガ獨リ漸騰シテ居ルト云フコトハ、何ヲ意味スルデアリマセウカ、是ハ大イニ考ヘナケレバナラナイ點デアルト思ヒマス、此處大ナル軍事豫算ニ伴ヒマシテ、明年度ニ於テハ五十二億圓ノ公債發行ノ必要ニ迫ラレテ居ル、其結果トシテ通貨ノ膨脹ハ實ニ免レ難キ運命ニ置カレテ居ルト申サナケレバナリマセウ、加フルニ貿易ノ調整ニ基ク物資ノ缺乏ガ、更ニ一段ト物價騰貴ノ趨勢ヲ煽ルモノト思ヒマス、其結果延イテハ輸出貿易促進ノ障礙トナリ、國民生活ノ不安ヲ招來セント致シテ居ル、大藏大臣ハ先日モノ物價對策トシテハ、爲替水準ヲ堅持スレバ足リルノ故ヲ以テ、通貨膨脹ニ對シテハ餘リ重キヲ置イテ居ラレナイヤウデアリマスガ、吾々ハ斷ジテ此見解ニ同意スル

コトハ出來マセウ、政府ハ此巨大豫算ノ施行ニ當リマシテ、通貨膨脹ヲ抑制スル爲ニ有ユル手段ヲ盡シ、物資ノ供給ヲ潤澤ニシ、物價ノ急騰ヲ豫防スルコトニ、十全ノ注意ヲ拂ハレンコトヲ望ムモノデアリマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 原口初太郎君

今日ノ非常時局ヲ乘切ル爲ニハ、産業ノ各方面ニ統制ヲ強化シテ參ルコトハ、洵ニ已ムヲ得ヌコトデアリマセウ、政府ハ現ニ資金ノ統制ヲ行ヒ、貿易ノ統制ヲ行ヒ、爲替ノ統制ヲ行フテ居ル、然ルニ其實行シタル跡ヲ見マスレバ、當業者ノ取引ニ多大ナル壓迫ヲ加ヘ、到ル處ニ苦情百出ノ状態デアリマス、其結果折角政府ガ念願シテ居ル所ノ生産ノ擴充其モノニモ、多大ナル打撃ヲ與ヘントシツ、アル現狀デアリマス、輸出貿易ノ伸暢ニモ甚シク打撃ヲ與ヘツ、アルモノデアリマス、私ハ此場合具體的ニ一々之ヲ例示スルコトヲ避ケマススケレドモ、統制ノ方法拙劣ナル爲メ、統制ニ從事シツ、アル官吏ノ熟練ヲ缺イテ居ル爲メ、産業ノ各方面ニ於テ意外ナル打撃ヲ與ヘツ、アルト云フコトハ明カナ事實デアリマス(拍手)

統制ヲ實行スルニ當リマシテ十分ナル研究ヲ遂ゲ、能ク最小ノ犠牲ヲ以テ此目的ヲ達スルヤウ、特別ノ注意ヲ拂ハレンコトヲ警告スル者デアリマス、以上ノ警告ノ下ニ私ハ追加豫算各案ニ對シ委員長報告通り賛成ヲ致ス者デアリマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 原口初太郎君 (原口初太郎君登壇)

○原口初太郎君 私ハ立憲政友會ヲ代表致シマシテ、玆ニ臨時軍事費豫算追加案外各豫算案ニ對シ贊成ノ意ヲ表スル者デアリマス、臨時軍事費追加豫算四十八億五千万圓ハ、我國空前ノ大豫算デアリマス、軍事豫算ハ其編成竝ニ形式ニ於テ、軍事機密ノ保持上、殊ニ目下ハ事變進行中ノ爲メ、審議上其内容ヲ審カニスルコトヲ得マセヌガ、吾々ハ酷暑極寒ヲ忍ビ君國ノ爲メ、陸ニ、海ニ、將タ空ニ、驚異的戰績ヲ擧ゲツ、アル皇軍ニ對シ、衷心感謝ノ意ヲ表スルト共ニ、深ク時局ノ重大性ニ鑑ミマシテ、政府特ニ陸海軍當局ヲ信賴シ、銃後國民ノ義務ト致シマシテ、玆ニ本豫算ニ對シ欣然協贊ヲ致ス者デアリマス(拍手)併ナガラ本豫算ハ之ニ昭和十三年度一般豫算二十八億六千餘萬圓、竝ニ追加豫算ヲ加フル時ハ、實ニ八十餘億圓ノ巨額ニ達シマシテ、是ガ實行上ノ影響ハ洵ニ重大ナルモノガアルト申サナケレバナリマセヌ、即チ本豫算ガ及ボス必然的物價ノ騰貴、國際收支、就中貿易、爲替等ニ及ボス影響ハ、蓋シ想像ニ餘リアルモノト考ヘマス、又事變ニ因リ惹起セラレタル所ノ景氣、竝ニ負擔ノ跋行性ハ益、甚シキヲ加フルモノガアリマス、故ニ政府ハ本豫算ノ實行ニ當リマシテハ、十分ノ用意ヲ整ヘテ、運用上宜シキヲ得、以テ本豫算ニ依リ生ズルコトアルベキ惡影響ノ防遏ニ、渾身ノ努力ヲ致サレンコトヲ望ンデ已マヌ次第デアリマス(拍手)政府ハ國家總動員法案ノ審議ニ當リマシテ、若シ總動員法ガ實施セラル、曉ニ於テハ、軍需省ノ如キ機關

ヲ設置スル必要アリト言明セラレテ居リマスガ、總額八十餘億圓ノ大豫算ノ實行ニ當リマシテハ、政府ハ國民ノ重キ負擔ナルコトニ深キ念ヒヲ致サレマシテ、苟且ニ濫費等ノ非難ニ陥ルコトナキヤウニ、萬遺憾ナキヲ期セラレタキモノデアリマス(拍手)帝國政府ハ事變勃發當初ニ於テ、不擴大現地解決方針ヲ堅持セラレマシタガ、好マザルニ拘ラズ、支那國民政府ノ計畫の抗日行動ノ爲ニ擴大ノ餘儀ナキニ至リ、今ヤ政府ハ新事態ニ對應シテ、帝國不動ノ決意ヲ中外ニ宣明シ、愈、長期持久ノ作戰方針ヲ確立セラレ、將ニ新段階ニ入ラントスル時デアリマス、吾々國民ハ臥薪嘗膽時局突破ニ邁進スルノ固キ決心ヲ致シ、戰局ノ將來ニ對シ毫モ不安ヲ感ズルモノデアリマセヌガ、國際關係ハ漸次微妙ニ錯綜シ來リ、動モスレバ帝國出帥ノ初目的貫徹ニ障礙ヲ來サントスルコトアルハ、我國從來ノ戰爭事變ニ於テ例外ナキ不首尾ヲ回想致シマシレバ、懸念セザルヲ得ナイノデアリマス(拍手)政府ハ玆ニ留意セラレ、之ヲ未然ニ防遏スル爲ニ有ユル方策ヲ講ゼラレタキモノデアリマス

又政府ハ一方作戰上ノ效果ヲ擧グルト共ニ、他方占據地域ノ治安維持、經濟開發等ニ努力シ、所期ノ目的ヲ十分ニ達成セラレシコトヲ望ミマス、是ガ爲ニハ申ス迄モナク國策ハ常ニ首尾一貫、聊モ矛盾撞著ナキヲ期セラレナケレバナリマセヌ、然ルニ例ヘバ外資ノ一事ニ付テ申シマシテモ、一方ニ於テ政府ハ滿洲竝ニ北支ノ經濟開發ノ爲

ニ、外資ノ導入ヲ必要トスルコトヲ屢言明セラレタルニ拘ラズ、他方ニ於テ本院ニ上程セラレタル電力關係法案ニ於テ見ル如ク、外債所有者ニ不安ノ念ヲ與フルガ如キ國策ヲ敢行セラレルコトハ、正ニ國策遂行上ノ矛盾撞著ト言ハザルヲ得マセヌ(拍手)十分ナル御注意ヲ要望シテ已マザル次第デアリマス

終リニ臨ミ重ネテ申上ゲマス、吾々國民ハ時局ノ重大性ニ願ミ、政府特ニ陸海軍當局ヲ深く信賴シテ、本豫算ヲ無條件ヲ以テ協贊致ス者デアリマス、併ナガラ國內ノ情勢ヲ見マスルニ、時局ノ重大ニ藉口シテ、國內ニ相剋摩擦ヲ起サシムルガ如キ言動ヲ敢テスル者ガアリマス、其官タルト民タルトヲ問ハズ、舉國一致ノ和偕ヲ案サントスルモノデアリマスカラ、深ク之ヲ戒飭セラレ、眞ニ官民一致ノ實ヲ擧ゲ、以テ上陸下ノ宸襟ヲ安ンジ奉リ、下萬民ノ負託ニ副ハレンコトヲ謹ミテ要望致シマス、重ネテ爰ニ本豫算案ニ贊成ノ意ヲ致ス者デアリマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 野中徹也君

〔野中徹也君登壇〕  
○野中徹也君 私ハ第一議員俱樂部ヲ代表致シマシテ、昭和十三年度歳入歳出總豫算追加案外五件ノ事柄ニ關シマシテ贊成ノ意ヲ表シタイト思ヒマス、私共ガ豫算ニ關スル所ノ主張、又豫算ニ關スル吾々ノ意見、斯ウ云フヤウナ事柄ハ、既ニ此前ノ豫算ヲ審議スルニ當リマシテ、吾々ノ同僚カラシテ發表致シテ居リマス、ソレデアリマスカ

ラ、私ハ多ク此處デハ申上ゲマセヌ、又言フ必要ガナイ、殊ニ今年二月十一日カラ行動ヲ開始致シマシタ山西方面ニ於ケル我軍ノアノ状態ヲ見ル時ニ於キマシテハ、殊更ニ吾々ノ意見ヲ特ニ發表スル必要ハナイト考ヘルノデアリマス、殊ニ私共ハ向フノ方面ヲスツカリ調査シ、研究致シテ居ル、アノ邊ニ於ケル情勢ハ、國內ニ於テ吾々ガ想像シ得ザル状態デアアル、斯ウ云フ風ナ艱難、斯ウ云フヤウナ困苦ヲ忍ンデ、而モ雪中ニ於テ活躍ヲ致シテ居ル皇軍、此皇軍ノ辛苦ヲ想フナラバ、吾々ハ豫算ヲ審議スル必要ハナイト認メテモ宜イ位ノモノデアナイカト考ヘル

〔發言スル者多シ〕  
○議長(小山松壽君) 靜肅ニ  
○野中徹也君(續) 殊ニ此豫算ノ中心ハ、所謂軍事豫算デアアル、ソレデアアルカラ此軍事豫算ヲ眞個ニ適正ニ行ハスル其目的ノ爲ニハ、先ヅ出征シテ居ル將士ノ氣持、此氣持ヲ能ク吾々ハ了承シナケレバ相成ルマイト思フ、此出征セル將士ガ安心シテ軍事行動ヲ取り得ルヤウニヤツテ行カナケレバナラスノデヤナイカト思フ、其爲ニハ先ヅ國內的ニ於テ大ニソレニ對スル事情ヲ考慮シ、又矯正シテ行カナケレバナリマイト思フ、先ヅ家庭ノ問題、是等ハ既ニ政府ガ幾多ノ施設ニ於テヤツテ居ルガ故ニ、特ニ言フ必要ハナイ、私共ノ恐ル、ノハ最近ニ於ケル所ノ國內政治ノ情勢デアアル、此政治ノ情勢ハマダ恐ラク出征セル將兵ニハ傳ヘテ居リマス、幾分傳ヘテ居ルカモ知レヌ

ガ、普ク傳ハッテハ居リマス、ソレデアルケレドモ、若シモ最近ニ於ケル政治ノ情勢ト云フモノガ、アノ將兵ニ殘ラズ傳ハルヤウナ場合ニ於テ、彼等ノ氣持ハドウデアルカ(拍手)國內相剋云々ト云フヤウナ問題ハ、之ヲロニスル諸君ノ氣持ノ上ニ、大ニ考ヘテ行カナケレバナラヌコトガアルノデハナイカト思フ

(發言スル者多シ)

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○野中徹也君(續) 政府モ亦同様デアアル、政府モ此將兵ノコトヲ思ヘバ、決シテ小サナコトニ戀々トシテハイケナイ、不退轉ノ意氣ヲ以テ政策ヲ急行スベキモノデナイカト思フ、或ハ今國內ニ於キマシテハ、戰爭ハ何處ニ起ツテ居ルカト云フヤウナ額付ヲシテヤツテ居ルヤウナ連中ガ多イト思フ、(ソレハオ前ダ)ト呼フ者アリ)サウ言フ者ガサウダ

(發言スル者多シ)

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○野中徹也君(續) 斯ウ云フ風ナ氣持デアアルガ故ニ、此將士ガ日本政治情勢、殊ニ議會情勢ヲ見ル場合ニ於テ、痛憤スル連中ガ相當ニアルノデハナイカト思フ、吾々ハ政府ガ能ク内省スルト同時ニ、オ互同志モ内省シナケレバナラヌノデハナイカト思フ(オ前コソ反省シロ)ト呼フ者アリ)政府ハ宜シク此政策ヲ實行スルニ當リ、不退轉ノ氣持ヲ以テ、ドン／＼自分ノ思フ所ヲ進行シテ宜シイ、遠慮スル必要ハナイ(拍手)自分ノ信念ニ應ジテ、斯ウ云フヤウナ豫算ヲ出シ

タ場合ニ於テ、少シ位文句ヲ言フタツテ問題デアナイ(大キナコトヲ言フナ)ト呼フ者アリ)更ニ進ムナラバ、斯ウ云フ風ナ情勢ヲ續イテ行ツタ場合ニ於テ、戰場ニ行ツテ居ル將士ガ日本ニ歸ツテ來タ晩ニ、如何ナル情勢ガ現出スルカモ分ラヌト、私共ハ心配セザルヲ得ナイ(豫算ト何ノ關係ガアルカ)ト呼ヒ其他發言スル者多シ)宜シク政府ハ本豫算ヲ實行スルニ當リテハ、今言ツテ通り不退轉ノ意氣ヲ以テ、小節ニ關セズ、大局ヲ見テ行動シナケレバナラナイ、之ヲ切ニ政府ニ進言ヲ致シマシテ、私ハ本案ニ對スル賛成ノ意ヲ表スル次第デアリマス、殊ニ私共ガ本案ニ賛成スル所以ノモノハ、前ニ言ウク通り、戰場ニ於キマシテ身命ヲ賭シテ、専心國家ノ爲ニ奮闘シテ居ル陸海軍ノ將士ニ對シテ、慎重ナル敬意ヲ表スルガ爲メデアリマシテ、茲ニ謹ンデ本案ニ賛成スル者デアリマス(拍手)

(發言スル者多シ)

○議長(小山松壽君) 米窪滿亮君

○米窪滿亮君 今回ノ事變ガ有史以來ノ大事變デアロトハ、今更私ガ此處デ申ス迄モナイコトデアリマス、而モ現狀ハ長期戦ノ態様ヲ示シテ居ルノデアリマシテ、斯ウ云フ意味ニ於テ、我ガ國民ガ一日モ早ク政府聲明ノ當初ノ目的ヲ實現スルコトガ必要デアロトハ、是亦言フ迄モナイノデアリマシテ、茲ニ私ガ社會大衆黨ヲ代表致シマシテ、臨時軍事費追加豫算外五案ニ對シ、賛成ノ意ヲ表スル所以ハ茲ニアルノデアリマス(拍手)併ナガラ本豫算ハ我國開關以來

(發言スル者多シ)

○議長(小山松壽君) 米窪滿亮君

ノ大膨脹豫算デアリマス、此財源トシテ吾々ガ承ツテ居ル點ハ、即チ公債ニ依ルノデアリマスガ、此公債ノ發行ニ付テ考ヘテ見マスト、軍事費トシテ吾々ガ目下審議シツ、アルモノガ約四十億圓、之ニ二十年度分ノ未發行公債ガ約十七億圓、更ニ二十年度ノ一般會計ノ財源トシテ引充テ、居ルト傳ヘラレルモノガ七億圓、特別會計ニ對スル財源トシテノ公債ガ三億圓、合計六十七億圓ノ非常ニ龐大ナル公債ガ發行サレルコトニナルノデアリマス、此龐大ナル公債ノ消化ガ、果シテ出來ルカドウカニ付テハ、何等ノ疑問ハナイノデアリマスガ、此消化ガ國民生活ニ與ヘル影響ニ付テ、吾々ハ政府ニ二三ノ希望ヲ申上ゲテ置キタイト思フノデアリマス、何トナレバ此大キナ公債ノ發行ハ、當然ノ歸結トシテ日本銀行ノ背負ヒ込ミトナルコトハ、私ガ言フ迄モナイノデアリマス、此結果當然ソレハ通貨ノ大膨脹ヲ促スノデアリマシテ、是ハ輸入ノ統制ト相俟ツテ、物價殊ニ國民ノ必需品ノ非常ナル騰貴ヲ促スコトハ必至デアリマス、本事業變ガ今後相當長期ニ互ルコトガ想像サレル時ニ、國民ノ此持久力ヲ經濟的ニ持タセル爲ニ、物價騰貴ガ國民生活ノ消費經濟ヲ危険ニ陥レザラシメルコトハ、政府トシテ當然考慮シナケレバナラヌ問題デアリマス(拍手)又此物價ノ騰貴ハ生産力ノ擴充ニ障礙ヲ及ボスコトハ、是亦言フ迄モナイノデアリマス、吾々ハ之ニ對シテ政府ハ宜シク公債政策ト相並シテ、生活必需品ノ公定價格ヲ根幹トスル物價統制機構ヲ樹立スベシト

云フコトヲ忠告スルノデアリマス(拍手)隨テ政府ハ此龐大ナル追加豫算ニ對スル國民ノ關心ガ、何處ニアルカヲ能ク察知セラレマシテ、十分ナル對策ヲ講ズベキデアリマス

(發言スル者多シ)

○議長(小山松壽君) 米窪滿亮君

更ニ吾々ハ出征者ノ遺家族ニ對スル國家ノ扶助ヲ擴大シテ、以テ出征將兵ヲシテ後顧ノ憂ナカラシメルコトヲ要求スル者デアリマス(拍手)最近各種ノ情報及ビ議會ニ於ケル各種ノ機會ニ於テ政府ノ報告スル所ニ依リマスレバ、今ヤ對支戰局ハ我方ガ自主的ニ其進展及ビ範圍ヲ決定シ得ル段階ニ達シテ居ルト云フコトヲ吾々ハ承知シテ居ルノデアリマス、此戰局ガ重大ナル轉機ニ達シテ居ル現段階ニ於テ、政略的ニモ亦戰略的ニモ、政府ハ慎重且ツ有效ナル方途ヲ講ズベキデアルト云フコトヲ、私ハ政府ニ強ク注意ヲスルノデアリマス、先程政友會代表ノ言ハレタ通り、其一ツノ具體的方法トシテハ、占據地ニ於ケル文化經濟ノ兩工

(發言スル者多シ)

作ニ付テハ、最モ有效ナル方策ヲ講ズベキデアリ、更ニ國際的ニハ今日マデノ、アノ輝シイ軍事的ノ戰果ヲシテ有終ノ美ヲ收メ、以テ數万ノ血ノ犠牲者ニ對シテ、之ヲ無爲ニ終ラシメザラス所ノ、外交工作ヲシナケレバナラヌト云フコトヲ言フノデアリ

マス(拍手)即チ今日ノ戰時外交ノ態勢ヲ整ヘ、更ニ之ヲ今日以上ニ積極化スルコトガ、内閣數次ニ互ツテ聲明シタ所ノ、當初ノ目的ヲ一日モ早ク實現スルモノデアルト固ク信ズル者デアリマス、以上ノ希望ヲ政府ニ傳ヘテ、私ハ本案ニ賛成スル所以デアリ

マス(拍手)併ナガラ本豫算ハ我國開關以來

(發言スル者多シ)

○議長(小山松壽君) 米窪滿亮君

ノ大膨脹豫算デアリマス、此財源トシテ吾々ガ承ツテ居ル點ハ、即チ公債ニ依ルノデアリマスガ、此公債ノ發行ニ付テ考ヘテ見マスト、軍事費トシテ吾々ガ目下審議シツ、アルモノガ約四十億圓、之ニ二十年度分ノ未發行公債ガ約十七億圓、更ニ二十年度ノ一般會計ノ財源トシテ引充テ、居ルト傳ヘラレルモノガ七億圓、特別會計ニ對スル財源トシテノ公債ガ三億圓、合計六十七億圓ノ非常ニ龐大ナル公債ガ發行サレルコトニナルノデアリマス、此龐大ナル公債ノ消化ガ、果シテ出來ルカドウカニ付テハ、何等ノ疑問ハナイノデアリマスガ、此消化ガ國民生活ニ與ヘル影響ニ付テ、吾々ハ政府ニ二三ノ希望ヲ申上ゲテ置キタイト思フノデアリマス、何トナレバ此大キナ公債ノ發行ハ、當然ノ歸結トシテ日本銀行ノ背負ヒ込ミトナルコトハ、私ガ言フ迄モナイノデアリマス、此結果當然ソレハ通貨ノ大膨脹ヲ促スノデアリマシテ、是ハ輸入ノ統制ト相俟ツテ、物價殊ニ國民ノ必需品ノ非常ナル騰貴ヲ促スコトハ必至デアリマス、本事業變ガ今後相當長期ニ互ルコトガ想像サレル時ニ、國民ノ此持久力ヲ經濟的ニ持タセル爲ニ、物價騰貴ガ國民生活ノ消費經濟ヲ危険ニ陥レザラシメルコトハ、政府トシテ當然考慮シナケレバナラヌ問題デアリマス(拍手)又此物價ノ騰貴ハ生産力ノ擴充ニ障礙ヲ及ボスコトハ、是亦言フ迄モナイノデアリマス、吾々ハ之ニ對シテ政府ハ宜シク公債政策ト相並シテ、生活必需品ノ公定價格ヲ根幹トスル物價統制機構ヲ樹立スベシト

(發言スル者多シ)

○議長(小山松壽君) 米窪滿亮君

ノ大膨脹豫算デアリマス、此財源トシテ吾々ガ承ツテ居ル點ハ、即チ公債ニ依ルノデアリマスガ、此公債ノ發行ニ付テ考ヘテ見マスト、軍事費トシテ吾々ガ目下審議シツ、アルモノガ約四十億圓、之ニ二十年度分ノ未發行公債ガ約十七億圓、更ニ二十年度ノ一般會計ノ財源トシテ引充テ、居ルト傳ヘラレルモノガ七億圓、特別會計ニ對スル財源トシテノ公債ガ三億圓、合計六十七億圓ノ非常ニ龐大ナル公債ガ發行サレルコトニナルノデアリマス、此龐大ナル公債ノ消化ガ、果シテ出來ルカドウカニ付テハ、何等ノ疑問ハナイノデアリマスガ、此消化ガ國民生活ニ與ヘル影響ニ付テ、吾々ハ政府ニ二三ノ希望ヲ申上ゲテ置キタイト思フノデアリマス、何トナレバ此大キナ公債ノ發行ハ、當然ノ歸結トシテ日本銀行ノ背負ヒ込ミトナルコトハ、私ガ言フ迄モナイノデアリマス、此結果當然ソレハ通貨ノ大膨脹ヲ促スノデアリマシテ、是ハ輸入ノ統制ト相俟ツテ、物價殊ニ國民ノ必需品ノ非常ナル騰貴ヲ促スコトハ必至デアリマス、本事業變ガ今後相當長期ニ互ルコトガ想像サレル時ニ、國民ノ此持久力ヲ經濟的ニ持タセル爲ニ、物價騰貴ガ國民生活ノ消費經濟ヲ危険ニ陥レザラシメルコトハ、政府トシテ當然考慮シナケレバナラヌ問題デアリマス(拍手)又此物價ノ騰貴ハ生産力ノ擴充ニ障礙ヲ及ボスコトハ、是亦言フ迄モナイノデアリマス、吾々ハ之ニ對シテ政府ハ宜シク公債政策ト相並シテ、生活必需品ノ公定價格ヲ根幹トスル物價統制機構ヲ樹立スベシト

マス(拍手)

○議長(小山松壽君) 椎尾辨匡君

(椎尾辨匡君登壇)

○椎尾辨匡君 本豫算ニ賛成ノコトハ、先

ニ報告サレマシタ通り、全會一致デアリマシテ、私共モ譽テ賛成スル者デアリマスガ、其希望意思ニ付キマシテハ、自ら違ッ方面モアリマスルノデ、國民全體ノ動キノ爲ニ一言希望ヲ申述ブルノデアリマス、此皇軍ノ活躍ト、重大ナル時局ニ對シマシテ、舉國一致スルコトハ言フ迄モナイノデアリマスルガ、此一致ノ力ヲ以テマシテ、内閣ガモット力強く、確信以テ進マル、コトヲ希望スルノデアリマス、近衛首相ガ明朗率直ナル達識ヲ持ツテ事ニ當ラレツ、アルコトハ、國民ガ喜ビヲ以テ見テ居リマスケレドモ、何トナクソコニ弱々シイ所ガアルノデ、モット力強く一般ヲ率キテ進マレルコトヲ希望スル者デアリマス(拍手)同時ニ閣僚諸公ニ於カレマシテモ、軍部ハ此國民總意ニ依ル贊同ニ依リテ一切ノ費用、殊ニ軍ノ各種設備ノ充實セラレマスル機會ヲ以テ、ドシノト兵器設備ヲ充實セラレマスルバカリデナク、更ニ繼續的ニ、現實ニ之ヲ整備セラレマシテ、如何ナル時局ノ變化ガ起リマシテモ、如何ナル國際情勢ノ問題ガ起リマシテモ、毫モ逡巡スル所ナキヤウニ、十分ナル設備ニ邁進セラレンコトヲ希望スル者デアリマス(拍手)而シテ軍ガ十分ナ成績ヲ擧ゲツ、アルノデアリマスルガ、國民ノ期待致シマスル所ハ、決シテ是ガ中途デ唯勝利ヲ名トシテ撤退スルコトナク、其戦果

ヲ確實ニ、徹底的ニ把握スルコトヲ希望シテ已マナイ者デアリマス、是ガ爲ニハ軍ト外交ガ能ク一致シテ、其目的ヲ達成スルニ努メラレンケレバナラスノデアリマスルガ、十分ナル努力ハ之ヲ認メマスルケレドモ、其カト云フコトニ付テ、國民ハ多クノ不安ヲ感ジテ居ルモノデアリマス(拍手)ソレ故ニ外交方面ニ於カレマシテハ、一層其機關ノ活躍ヲ圖リ、殊ニ先ニ提示サレマシタ四箇條ノ要件ナドニ拘ハルコトナク、モット有效確實ナル戦果ヲ把握致シマスルヤウニ、著々準備セラレンコトヲ希望スル者デアリマス

更ニ國內各般ノ政務ノ上ニ於キマシテハ、此長期戦ト云フニ拘ラズ、長期戦ノ認識ガ甚ダ不徹底デアリマス、成程新聞其他ニ報ジマスルガ如ク、蔣政権ハ戰意沮喪シ、又兵力財力ノ涸渴ヲ來シ、内訌紛争ヲ見ルガ如キコトモ、一面ノ事實ニ相違アリマセス、併ナガラ國民ノ長期戦ニ對スル覺悟認識ヲ強メマスルニハ、左様ナ我國ニ都合ノ好イ方面バカリヲ考ヘルコトデナクシテ、我國ニ都合ノ悪い方面ヲモ十分ニ國民ニ認識サセテ置ク必要ガアルノデアリマス、即チ蔣政権ニ致シマシテモ、今トナッテハ絶體絶命、窮鼠猫ヲ嚙ム底ノ力ヲ以テ進ムコトデモアリ、又四川省方面カラ奥地ニ於キマシテハ、相當ニ食糧ノ自給自足ノ途ガアルコトデアリ、又人口多數ナルニ依リテ、相當ノ兵員ノ補給ヲ得ルコトデアリ、有ユル努力ニ依リマシテ、國際上ノ不當ナル契約

ニ依ッテデモ、何等カノ利便ヲ得ルコトヲ計ルコトデアッテ、少クトモ我方ニ油斷ガアリマスレバ、如何ナル困難ヲ、一層深刻ナラシメルカ分ラナイト云フコトヲ明ニ致シマシテ、國民全體ガ是ハ眞ニ長期戦ニナルモノデアルト云フコトヲ認識シテ、共同結束致シマスルヤウニ指導セラレルコトノ、必要ガアルモノデアルト信ズル者デアリマス(拍手)

更ニモウ一ツ附加ヘマスルコトハ、言フ迄モナク今回ノ事變ハ、我が建國以來ノ皇國ノ大精神ニ基キ、東亞ノ安定ヲ圖ル、正々堂々タル事柄デアリマシテ、之ヲ思想方面カラ見マスレバ、實ニ人類ノ眞實ナル國際平和生活ヲ建設シ、新國際聯盟ヲ建設致シマスル所ノ、大精神ニ基イテ動クベキモノデアリマシテ、内閣ヲ中心トシテ全面的ニ此日本ノ偉大ナル精神、偉大ナル思想ヲ發揮スルコトニ、有ユル方面ニ努力サレテ、國民全體ガ精神的ニ眞ノ結束ヲシテ、堅忍持久其事ニ當ルヤウニ努力サレルヤウニ、此豫算全體ガ通過スルコトヲ機會ト致シマシテ、一層内閣ハ確信以テ事ニ當ッテ、舉國一致シテ此時局ヲ克服センコトヲ希望シテ已マナイ者デアリマス、此意味ヲ以テ贊同ノ意ヲ表スルノデアリマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 由谷義治君 (由谷義治君登壇) ○由谷義治君 四十八億五千万圓、一箇ノ豫算案トシテハ、空前ナ巨大數字ヲ持ッ臨軍事費追加豫算ヲ中心トシテ、附録の五箇ノ豫算案ガ今組上ニ上ッテ居リマス、臨時

軍事費追加豫算ノ内容ハ一切不明デアリマス、軍部兩相カラ極メテ抽象的ナ提案理由ノ説明ハアリマシタガ、吾々ハ遂ニ其具體的の内容ヲ知ルコトガ出來ナカッタノデアリマス

例ヘバ私ハ一個ノ研究資料トシテ敢テ提供シヨウト思フノデスガ、一般的ニ心配サレテ居ル所ノ生産力、特ニ軍需生産力問題ノ如キヲ、一箇ノ研究資料トシテ考究シヨウト考ヘマシテモ、軍事費豫算書ハ何事モ吾々ニ教ヘナイノデアリマス、成程軍部兩相ノ説明中ニハ、兵器彈藥ノ補充、作戰資材ノ準備、軍需品ノ調達等々ノ言葉ハアリマスガ、其具體的ナ數量モ金額モ全然秘密デアリマス、私ハ偶、議題ノ一ツデアル所ノ特別會計追加豫算中ノ陸軍省所管、造兵廠作業追加豫算計算書各目明細書ヲ見マシタ所ガ、右ノ造兵廠製品賣拂代、即チ兵器彈藥製造額ガ十三年度當初豫算ニ於テ二億三百万圓デアリマシタモノガ、此度ノ追加豫算ニ於テ一躍十二億七千万圓、約六倍半ニ達スル所ノ飛躍の大擴張ガ計畫シテアルコトヲ承知シタノデアリマス、然ルニ其各目明細書ヲ更ニ仔細ニ吟味致シマスト、地金、木材、皮革、火藥原料、雜品等々ノ材料費、從業労働者ノ人員、竝ニ支拂賃銀給與等ノ事業費ハ、製品賣上高ト殆ト同率ノ割合デ増加シテ居リマスガ、六倍半ノ生産力擴大強化ニ當然對應セネバナラヌ工場設備ヲ増大スベキ、固定資本ノ増加豫算ヲ發見スルコトガ出來ナイノデアリマス、造兵廠其モノノ工場機械ガ大増加スルニ要スル設備資金ガ、何處カラ豫算立テラレテ居ルカ全

○議長(小山松壽君) 由谷義治君

○由谷義治君 四十八億五千万圓、一箇ノ豫算案トシテハ、空前ナ巨大數字ヲ持ッ臨軍事費追加豫算ヲ中心トシテ、附録の五箇ノ豫算案ガ今組上ニ上ッテ居リマス、臨時

○議長(小山松壽君) 由谷義治君

○由谷義治君 四十八億五千万圓、一箇ノ豫算案トシテハ、空前ナ巨大數字ヲ持ッ臨軍事費追加豫算ヲ中心トシテ、附録の五箇ノ豫算案ガ今組上ニ上ッテ居リマス、臨時

○議長(小山松壽君) 由谷義治君

然不明デアリマス、恐ラク前ニ引用シマシタ軍部兩省ノ抽象的説明用語カラ、斯ノ如キ工場設備資金ハ四十八億五千万圓ト云フ臨時軍事費豫算中ニ包藏サレテ居ルデアラウコトヲ、想像スルダケニ止マルノデアリマス、以上ハ唯一箇ノ例證ニ過ギマセヌガ、軍事費ノ内容ハ毫末モ帝國議會ニ知ラシメラレナイ、私ハ此處デ議會審議權ト軍事費トノ憲法論議ヲ彼此レシヨウトハ考ヘマセヌ、此處デ爲スベキコトハ、軍事費ノ内容ヲ一切合財不明不知ノ儘ニ、其贊否ヲ表明セネバナラスコトデアリマス、時ハ戰爭ノ眞最中、事ハ軍事外交ノ機密ガ全部のデアリマス、其意味ニ於テ吾々東方會ヘ、臨時軍事費ヲ初メ一切ノ豫算案ニ贊成致シマス、贊成ハスルガ、此機會ニ於テ政府當局ニ對シ、吾々ハ眞劍ニ要求シ且ツ警告セネバナラスモノガアリマス、今ヤ支那事變ガ第二段階ニ移ツタノデアリマスガ、國民總意ノ常識カラ之ヲ見、國民的率直至純ナル感情カラ之ヲ察スルト、日支事變ニ直接的ナ問題トシテ、戰爭ノ進行展開ニ關シ、戰爭ト表裏不可分ノ關係ニアル外交ノ問題ニ關シ、幾多ノ重大問題ガ累加幅濶シテ居リマス、ソレニモ拘ラズ是等重大問題ニ對スル政府ノ答辯ハ常ニ回避セラレ、或ル場合ニハ拒否サヘセラレタノデアリマス、併シ吾々ハ是モ又時下場合ガ時下場合ダカラ已ムヲ得ナイトスルガ、國民ノ常識ト感情ガ如何ニモ許シ得ザルモノガ殘ツテ居リマス、私ハ極メテ露骨且ツ端的ニ其數點ヲ指摘シタイ

日本ノ支那ニ於ケル一切ノ軍事行動ガ、遠大ナル戰果ヲ達成スルニ躊躇シテ居ルガ如キ感ガアルト云フノモ、其一デアリマス、日本ガ軍的事ニモ、政治的ニモ、外交的ニモ、遮二無二一心不亂ニ突進シ、突破セネバナラスト云フノモ、其一デアリマス、廣東即座ニ攻略スベシ、以テ蔣政權最後ノ糧道ヲ殲滅シ、以テ致命的打撃ヲ敢行セネバナラスト云フノモ、其一デアリマス、蔣介石ノ謂フ長期抗日戰ニ對應スベク、日本自ラ長期應戰ト云フガ如キコトハ、東亞安定勢力ヲ把握スル者ノ名譽デハ斷ジテナシト云フノモ、其一デアリマス、彼レ長期抗戰デアラナラバ、我ハ即チ長期大陸經營ナラザルベカラズト云フノモ其一デアリマス、特ニ近頃奇怪千萬ナコトハ、又々第三國ニ依ル第二次和平仲介ノ風説、世評ガアチコチカラ風聞セラル、コトデアリマス、敢テ其具體的説明ハ之ヲ私ハ遠慮致シマス、斯ノ如クシテ政府ハ果シテ健在ナリヤ、廣田外相ノ責任如何ト云フノモ其一デアリマス

以上ノ如キ諸點ガ今ヤ國民的常識ト感情トノ重大關頭事トナツテ居リマス、近衛首相以下閣僚諸公ハ深甚ナル覺悟ト用意ガアリマスカ、吾々ハ本豫算ヲ贊成シツ、特ニ戰費ノ使用ニ關シ、戰爭ノ進行ニ關シ、外交ノ經緯ニ關シ、近衛内閣ノ責任ト任務ハ絕對的ナモノデアアルコトヲ強調致シマス、世界歴史ノ一大轉換ヲ意味スル支那事變今後ノ處理對策ニ關シテ、萬々一失政失敗ガアル場合、政府諸公ハ其身命ヲ賭スルダケノ誠忠ト決意ガナケレバナラスト

思フ、政府ノ誠忠ト決意トヲ前提條件トシテ吾々ハ本案ニ贊成致シマス

此場合最近ノ政治情勢ニ關シテ私ハ一言シタイコトガアル、第一ハ政府ニ自己分裂ガアツテハナラスコトデアリマス、私ハ一々ノ事實ヲ此處デ指摘致シマセヌ、是ハ内閣諸公ガ自ラ顧ミルナラバ分ルデアラウト思フ、切ニ反省ヲ要求スル、第二ハ、昨日本會議場ニ於テ電力管理案記名投票ノ場合ニ於ケル永井遞信大臣ノ醜態デアリマス、永井遞信大臣ハ政民兩黨ノ修正案ニ反對ヲ表明シテ居ル、然ルニ記名投票ノ際、其國務大臣ノ責任ニ於テナゼ青票ヲ投票シナイカ、斯ノ如キハ立憲國ノ國務大臣トシテ、其責任拋棄デアリマス、衆議院議員トシテハ、是ハ重大ナル議員ノ任務ノ自己冒瀆デアリマス、コンナ連中ガ居ツテ近衛内閣ハ果シテ革新政策ヲ強調シ、非常時局ヲ突破スル資格トシテ缺クル所ナキヤ否ヤ、特ニ永井君ノ反省ヲ要求シ、私ハ政府全體ニ警告ヲスル

最後ニ私ハ南支、中支、北支戰線ニ出動セル所ノ、百万ノ皇軍將兵ノ忠勇武烈ニ對シ、滿腔ノ尊敬ト信頼トヲ表明スル機會ヲ得タルコトヲ光榮ト致シマシテ、豫算各案ニ對スル贊成ノ趣旨辯明ヲ終リマス

○議長(小山松壽君) 是ニテ討論ヲ終局致シマシタ、採決致シマス、六案ノ委員長報告ハ孰レモ可決デアリマス、六案ヲ一括シテ委員長報告ノ通り決スルニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

(總員起立)

○議長(小山松壽君) 起立總員 (拍手起ル)

○議長(小山松壽君) 仍テ六案共委員長報告ノ通り全會一致可決確定致シマシタ(拍手)

○服部崎市君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此際日程第四ヲ繰上ゲ上程シ、其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ノ順序ハ變更セラレマシタ、日程第四、農地調整法案、第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長宮澤裕君

第四 農地調整法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一 農地調整法案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十三年三月五日

委員長 宮澤 裕

衆議院議長 小山松壽殿

(別紙)

(小字及——ハ委員會修正)

農地調整法案中左ノ通修正ス

第一條 本法ハ、互讓相助ノ精神ニ則リ耕作者ノ地位ノ安定及

農業生産力ノ維持増進ヲ圖リ以テ農村ノ經濟更生及農村平和ノ保持ヲ期スル爲メ農地關係ノ調整ヲ爲スルヲ以テ目的トス

第四條 道府縣、市町村其ノ他命令ヲ以テ定ムル團體ガ農村ノ經濟更生ノ爲メ命令ノ定ムル所ニ依リ自作農創設維持又ハ農地ノ貸付ノ事業ヲ行フ場合ニ於テ之ニ要スル土地ヲ取得シ又ハ使用スルノ必要アルトキハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ土地ノ所有者其ノ他之ニ關シ權利ヲ有スル者ニ對シ土地ノ讓渡又ハ使用收益ノ權利ヲ設定若ハ讓渡ニ關スル協議ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ團體ガ未墾地ヲ開發シテ同項ノ事業ヲ行ハントスル場合ニ於テ同項ノ規定ニ依ル協議調ハザルトキハ開發セントスル未墾地其ノ他其ノ開發ニ必要ナル土地又ハ其ノ使用收益ノ權利ヲ收受又ハ使用スルコトヲ得  
前項ノ規定ニ依ル收用又ハ使用ニ關シテハ土地收用法ヲ適用ス

第九條 農地ノ賃貸人ハ賃借人ニ信託スベキ事情ナキニ拘ラズ小作料ヲ滞納スルニ反シタル行爲ナキ限り賃貸借ノ解約ヲ爲シ又ハ更新ヲ拒ムコトヲ得ズ但シ土地使用ノ目的ノ變更又ハ賃借人ノ自作ヲ相當トスル場合其ノ他正當ノ事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ  
當事者ガ農地ノ賃貸借ノ期間ヲ定メタルトキハ當事者ガ期間滿了前六月乃至

一年內ニ相手方ニ對シ更新拒絶ノ通知又ハ條件ヲ變更スルニ非ザレバ更新セザル旨ノ通知ヲ爲サザルトキハ從前ノ賃貸借ト同一ノ條件ヲ以テ更新ニ賃貸借ヲ爲シタルモノト看做ス但シ賃借人ノ疾病ニ因リテ自ラ耕作スルコト能ハザル爲メ其ノ他特別ノ事由ニ因リテ一時賃貸借ヲ爲シタルコト明ナル場合ハ此ノ限ニ在ラズ  
農地ノ賃貸借ノ當事者賃貸借ノ解約ヲ爲シ又ハ更新ヲ拒マントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ豫メ其ノ旨ヲ市町村農地委員會ニ通知スベシ  
第二項竝ニ民法第六百十七條及第六百十八條ノ規定ニ異ル小作條件ニシテ賃借人ニ不利ナルモノハ之ヲ定メザルモノト看做ス

第十三條 小作關係ノ爭議ヲ除クノ外相隣關係其ノ他農地ノ利用關係ニ付爭議ヲ生ジタルトキハ當事者ハ裁判所ニ停ノ申立ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ小作調停法及第十條乃至前條ノ規定ヲ準用ス  
第十四條 第一項ノ規定ニ依ル協議調ハザルトキハ同條同項ノ團體ハ裁判所ニ停ノ申立ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ小作調停法ヲ準用ス

第十四條 裁判所第十二條又ハ前條第一項ノ規定ニ依リ小作關係ノ存續、小作條件ノ變更其ノ他爭議ノ解決上必要ナル裁判ヲ爲サントスル場合ニ於テ必要

アリト認ムルトキハ市町村農地委員會又ハ道府縣農地委員會ノ意見ヲ聽クコトヲ得  
第二十一條 第十條第二項、第十一條、第十二條、第十三條第一項及第十四條ノ規定ハ本法施行ノ際現ニ繫屬スル小作關係其ノ他農地ノ利用關係ニ關スル訴訟事件又ハ調停事件ニモ亦之ヲ適用ス  
附帶決議

一 政府ハ永小作權(民法施行法第四十七條第三項ノ永小作權ヲ含ム)ニ付テハ速ニ調査ノ上所有權者及永小作權者雙方ノ地位安定ノ方途ヲ講スヘシ  
二 政府ハ農地委員會ノ設置構成運用ニ付テハ本院ノ論議ニ鑑ミ公平妥當ニシテ且ツ農村自治機能ニ惡影響ヲ及ボササル様慎重ニ對處スヘシ  
(宮澤裕君登壇)

○宮澤裕君 豫テ審議ヲ御委託ニ相成リマシタル農地調整法案ノ委員會ノ經過竝ニ結果ヲ報告申上ゲマス  
委託ヲ受ケマシタ吾々委員ハ、去ル一月二十九日委員室ニ會合致シマシテ、委員長、理事ノ互選ヲ致シタノデアリマス、其結果不肖宮澤裕委員長、理事ニハ土屋寛君、村松久義君、河野一郎君、服部岩吉君、赤城宗徳君、川俣清吾君、此六名ガ御選任ニ相成リマシタ、尤モ赤城君ハ中途ニ於テ御辭任ニナリマシテ、高岡大輔君ガ茲ニ更迭サレ、再ビ高岡君ノ御辭任ニ依リテ、北勝太郎君ガ御選任ニナッタノデアリマス

御報告ノ順序上、本案ノ概要ヲ一通リ申上ゲテ見タイト思フノデアリマスガ、本案ハ全條二十二箇條ヲ以テ成立ツテ居ルノデアリマス、而シテ第一條ニハ本法制定ノ趣旨ヲ謳ヒ、第二條ニハ農地ノ定義ヲ謳ヒ、第三條ニ於テハ兵役ニ應召其他ノ事由ニ依リテ、土地ノ所有者若クハ耕作者ガ自ラ土地ヲ管理シ、耕作スルコト能ハザルニ至ツタ場合ノ救濟規定ガ、茲ニ規定セラレテ居ルノデアリマス、第四條、第五條ニ於キマシテハ、農村經濟更生ノ爲メ、自作農創設維持ヲ行フ主體デアル道府縣、市町村、法令ニ依ル團體ガ、ソレニ必要ナル既墾、未墾ノ土地ヲ得マスル爲メ、必要ナル手續權限ヲ認メテ居ル條規デアリマス、更ニ六條、七條ハ、斯クシテ設定致シマシタル自作農者ガ其土地ヲ失ハナイヤウニ、維持存續セシメル爲メ、自分ノ處分モ制限サレ、他ヨリノ侵犯モ保護ヲ受クルヤウナ規定デアアルノデアリマス、八條、九條、就中八條ニ於キマシテハ、一旦小作者ガ小作權ヲ設定致シマス、登記ノ有無ニ拘ラズ第三者ニ對抗スルコトガ出來、他ノ總テノ物權ニ對抗シテ小作權ヲ主張シ、維持シ得ルコトヲ認メテ居ルノデアリマス、九條ハ、地主ト小作人トノ間ノ關係ヲ律シタ規定デアリマシテ、小作人ハ信義ニ反スル行爲ノナキ限り、土地ノ引上ラサレル心配モナク、又地主ニ於キマシテモ、地目ノ變更、或ハ其土地ヲ地主自ラ耕作スルトカ、特別ナル事由ノアル場合ノ外ハ、土地ノ引上ヲ爲スコトヲ禁止致シマシテ、専ラ地主ト小作人ガ協調妥協シテ、

從來動モスレバ頻發致シマシタル地主ト小作間ノ爭議ヲ、未然ニ防止シヨウト云フ計畫ノ下ノ規定デアアルノデアリマス、十條乃至十三條ハ、先ヅ頻發スル小作爭議ヲ小作調停法ニ依ッテ解決シ、不能ノ場合ハ更ニ進ンデ裁判ヲ以テ爭議ノ解決ヲ圖ラウト云フ規定デアリマス、ソレガ爲ニハ從來小作官ニ與ヘテ居ラナカッタ所ノ、爭議調停ノ申立ヲ爲スコトヲ認メテアリ、場合ニ依ッテハ裁判所ガ裁判ニ依ッテ、此爭議ノ解決ヲスルコトモ認メテ居ルノデアリマス、十四條乃至十七條ハ、本案ノ眼目ト致シマスル農地委員會ノ種類、組織、權限、或ハ其構成範圍等ヲ規定致シテ居ルノデアリマス、最後ニ附則トシテ十八條乃至二十二條ニハ、斯ウ云フ立案ニ伴フ必然ノ結果トモ申スベキ經過規定、及ビ國稅デアアル登錄稅ノ免除規定ガ制定サレテ居ルノデアリマス

要スルニ本法案ハ、當面既ニ起リ、又將來起ラントシツ、アリマス小作爭議ヲ、本法ニ依ッテ解決シツ、進ンデ耕作地ヲ順次自作農地ニ組替ヘテ行カントスルコトヲ眼目ト致シテ居ル所ノ立法デアリマス、此審議ハ前ニ申上ゲマシタ如ク、一月二十九日開會以來、一昨々日迄、約一箇月半ノ日月ヲ費シタノデアリマス、而モ所謂晝夜兼行、委員ハ勿論委員外者マデノ質疑ヲ許シマシテ、質疑應答ヲ重ネタル回数實ニ十八回デアリマス、質疑者ノ人員ヲ延人員ニ致シマスレバ、實ニ百數十名ニ上ルデアラウト思フノデアリマス

抑、本案ハ現下我が帝國ノ所謂重大案件デ

アリマス農村問題ニ對シテ、劃期的規律ヲ定メタル立法デアリマシテ、之ヲ物質的ニ申シマスナラバ、人口ノ凡ソ六割ヲ占メテ居リマス農村民ニ關スル産業立法デアリマスト同時ニ、之ヲ精神的ニ申シマスナラバ、所謂農村ノ紛爭ヲ解決致スコトハ固ヨリデアリマスガ、國家ニ取ッテ最モ忽諾ニ付シ難キ思想、衛生、保健等ニ至大ノ關係ヲ有スル社會立法デアリマス、而シテコ、二十年來ノ懸案解決ヲ目的トシテ居ル法律デアリマシテ、世ニ所謂今期議會ニ於ケル三大重要法案デアリマス、然ルニ他ノ電力國家管理法案、或ハ國家總動員法案ニ比ベマスト、問題ガ土地ニ關スル問題デアリ、地方農村ニ關スル問題デアリマスカラ、極メテ地味デアリマシテ、電力國家管理法案ノ如ク、極メテ煌ビヤカナ問題デハゴザイマセヌ、併ナガラ此審議ニ携リマシタ委員諸君ハ、何レモ斯道ノ權威者揃ヒデアリマシテ、極メテ熱心ニト云フヨリハ、寧ロ眞鍮ニ、而モ平和裡ニ、極メテ熱心懇切ナル質疑應答ガ繰返サレタノデアリマス、其實疑ノ内容ヲ悉ク此處ニ御紹介申上ゲルノ煩ヲ避ケマシテ、大體ハ速記録ニ就テ御覽ヲ願フコトニ致シ、最モ問題トナッタ數點、疑問トサレマシタ數箇所ニ付テ茲ニ御報告申上ゲ、御紹介申上ゲタイト思フノデアリマス

第一ノ質問ハ、本案ハ昨年度ノ農地法案及ビソレニ伴フ修正案ニ比シテ、概シテ内容モ簡略デアリ、殊ニ退歩的デアリ、小作立法ノ如キハ極メテ僅カシカ規定シテナイガ、如何ナル考デアアルノカ、或ハ院議ヲ尊

重セザルノ憾ミハナイカ、或ハ又之ヲ一時

的臨時立法トシテ協贊ヲ求メテ居ルノデハナイカト云フヤウナ質問ガアッタノデアリマス、之ニ對シマシテ政府ハ、院議ハ決シテ無視シテハ居リマセヌ、唯現下ノ情勢ニ於テハ、本法ヲ以テ最モ適正妥當ナリト思フテ居ルノデアリ、又此際多キヲ望ンデ不成立ニ終ラシヨリハ、寧ロ少キヲ以テ成立ラ期シテ居ルノデアリマス、謂ハ、本法ハ時代ノ反映デアリマストノ答辯ガアッタノデアリマス

次ノ質問ハ政府ハ將來土地制度ニ對シテ、根本的ノ計畫ヲ何カ持ッテ居ルノデアアルカ、即チ第四條ニ於テハ土地ノ團體所有權及ビ經營ヲ認メテ居ルガ、其眞意ハ那邊ニアルノデアアルカ、又是ハ家産法的ノ意味アッテノ制定デアアルカ、或ハ又自作者ニ限リ土地ヲ所有セシムル等ノ考デモアッテノ法案デハナイカ、斯ウ云フ突込ンダ質問ガアッタノデアリマス、之ニ對シテ政府ノ答辯ハ、土地制度ノ根本的の改革ナドト云フ考ハ持ッテ居リマセヌ、唯多數ノ實際耕作者ニ土地ヲ所有セシムルコトヲ目的ニシテ居ル法案デアリマス、第四條ニ自作農創設維持ノ爲ノ手段トシテ、暫定的ノ所有經營ヲ認メテ居ルノデアリマスガ、是ハ所謂自作農創設維持ノ經過の手段トシテ認メテ居ルノデアッテ、假令一時的手段トシテモ、個人ガ兼併セル土地ヲ小作スルヨリハ、其方ガ寧ロ宜イデハナイカト云フヤウナ答辯モアッタノデアリマス、尙ホ結果トシテ家産法的トモナルカモ知レヌガ、其意圖アッテ

斯ウ云フ立法ヲシテ居ルノデハナイ、又自作者ニ非ズンバ土地ヲ所有セシメナイト云フヤウナ意圖アッテ、制限ヲ考ヘテ居ルヤウナ譯デモナイ、斯ウ云フヤウナ答辯ガアッタノデアリマス

其次ノ質問ハ、本案ハ自作農創設維持ヲ主眼トスル法案デアルト言ハレルガ、從來自作農創設維持ノ狀況ニ照シテ見ルト、極メテ不成績デアアル、政府ハ此點ニ付テ對策ヲ考ヘテ居ルカ、先ヅ此對策ノ一ツトシテ、低利資金ノ貸付利子ナドヲ、或ハ二分五厘程度ニ低下セシムル考ハナイカ、又低利資金ノ利子ノ國庫補助ナドヲ考ヘテ居ルヤウナカ、殊ニ實績ハ自作農ガ小作農ニ一年轉落スルノ傾向ガアルガ、其責任ハドウ見テ居ルカ、斯ウ云フヤウナ質問ガアッタノデアリマス、之ニ對シマシテ政府ハ、自作農創設維持ハ成功トモ思ッテ居ラスガ、不成功トモ思ッテ居ラス、若シ此制度ナカリセバ、更ニ自作農ヨリ小作農ニ轉落スル者ガヨリ以上多カッタデアラウト考ヘル、又貸付金利子ノ低下、或ハ國庫補助ナドハ結構デアリマスケレドモ、只今困難ナリト思ハル、トノ答辯デアリマシタ

次ノ質問ハ農村ニ於ケル小作爭議ノ原因ノ大半ハ、地主ノ土地ノ引上デアリ、小作料ノ値上等ガ多クノ原因ヲ成シテ居ル、此際小作料ヲ認メ、進ンデハ小作料ヲ法認スル、即チ畫一的ニ何割以下トカ云フ位ニ法認スルコトニ依ッテ、小作料ノ讓渡ヲ認メ、權利義務ノ限界ヲ明確ニスルコトガ、爭議解決ニ便利デハナイカト云フコトノ質問、

解決ニ便利デハナイカト云フコトノ質問、

殊ニ又地方ニアツテハ現在小作料ガ或ハ二  
百圓内外、又永小作ニ付テハ八百圓内外ト  
云フヤウニ、現實賣買サレテ居ル土地スラ  
アルノデア、是等ノ現實ニ對シテ政府ハ  
何ト見テ居ルカ、又作離料デアルトカ云フ  
ヤウナモノモ、地方ニ於テハ事實行ハレテ  
居ルノデア、之ヲ何故ニ規定セヌカト  
云フヤウナ、熱心ナル質疑ガアツクノデアリ  
マス、之ニ對シマシテ政府ハ、何レノ形ニ  
依ツテモ小作料ヲ此際法認スルコトニ依ツテ、  
小作權ヲ所有權ニ近カラシムルコトハ、各  
方面ニ重大ナル關係ヲ及ボシテ、所謂土地  
制度ノ改革ト思ハレル小作料、離作料ヲ法  
認セヌカト云フ質問ガアリマスガ、是モ全  
國必シモ一律ニ同キヤナイ、無イ處モアル  
シ、認メテ居ツテモ其額モ必シモ一様デハナ  
イ、寧ろ甚ダ區々デア、故ニ是ハ其地方  
ノ習慣、個々ノ事情ニ依ツテ解決セシムルコ  
トガ、實情ニ即スルト信ジテ居ル、又舊慣  
永小作權ノ如キモ、民法施行法四十七條三  
項ニ於テ、約十年ノ將來ニハ問題ノ解決期  
ガ迫ツテ居ルガ、是モ其期間ヲ待タズ、成ベ  
ク速ニ、出來ルコトナラバ本議會ノ終了後、  
全國ニ互リ其實情ヲ調査シテ、早く之ニ善  
處シ、對策ヲ講ジタイト云フ政府ノ言明ガ  
アツクデアリマス

更ニ質問ト致シマシテ、十二條ニ依ルト  
小作調停委員會ニ於テ調停ガ成立タナイ場  
合ハ、裁判所ノ裁判ニ依ツテ之ヲ決定スルコ  
トニナツテ居ル、然リト致ストキハ、吾人帝  
國臣民ハ憲法二十四條ニ依ツテ、法律ノ定ム  
ル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權利ヲ失フコト

ニナルガ、ドウ云フ譯デア、殊ニ此事  
案タル小作爭議ハ所謂社會爭議デア、社  
會爭議ヲ苟且ニモ裁判ヲ以テ決定スルト云  
フコトハ、如何ニモ不穩當デハナイカ、其  
上ニ從來動モスレバ裁判官ノ漫常識ヲ云爲  
サレテ居ル此際、甚ダ妥當ナラザル立法  
ト思フガ、ドウ云フ考デアルカナドト云フ、  
熱烈ナル質疑ガ行ハレタノデアリマス、之  
ニ對シマシテ政府ハ、十三條ノ裁判ハ調停  
困難ニシテ、到底調停スル能ハザルト認メ  
タ場合ニ、小作官調停委員ノ意見ヲ聽キ、  
兩當事者ノ利益ヲ衡平ニ考ヘ、事情ヲ參酌  
シテ裁判スルノデアリマス、況ヤ本裁判ハ  
其性質上形成裁判デアツテ、確認裁判デハア  
リマセヌ、殊ニ本法ノ前例ヲ爲シテ居リマ  
スル金錢債務調停法ノ實績ニ徴シテ見ルト、  
金錢債務調停法ハ昭和七年ノ九月以來實施  
サレ、凡ソ事件ヲ三十八万件扱ツテ居ルガ、  
其中調停裁判ニ掛ツタモノハ、僅々百六十五  
件ニ過ギナイ、言換ヘレバ此裁判ニ掛ケル  
ト云フコトガ傳家ノ寶刀トナツテ、解決ヲ速  
カナラシメ、容易ナラシメテ居ルノデア  
カラ、御心配ノ如ク之ヲ濫用シテ、裁判ヲ  
以テ拘束スルヤウナコトハ實ニ極メテ少ク  
アラウト思フ、而シテ是アルガ爲ニ調停ノ  
解決ヲ容易ナラシムルノデア、御  
諒解ヲ願ヒタイノデア、又十條ニ於テ  
ハ係争中、即チ既ニ小作爭議ガ受訴裁判  
ニ付サレ、係争中ノ爭議ヲ小作調停ニ戻  
シテ解決スルコトヲ認メテ居ルガ、是ハ  
即チ裁判官ノ權利ヲ持ツテ居ル者ニ調停  
ヲ行ハセルト云フコトハ、是ハ裁判權ヲ

奪フモノデハナイカト云フ質問ニ對シテ、  
政府ハ是ハ裁判ヲ行フヨリモ、寧ろ調停  
ニ廻シタ方ガ當事者雙方ノ利益デアリ、又  
解決ヲ容易ナラシムルト信ズル場合ニ、當  
該裁判ヲ一時中止シテ調停ニ廻スノデア  
ル、若シ調停ニ於テ不調トナツタ場合ハ、  
原則トシテ再ビ當該裁判所ニ返戻スルコト  
ニナツテ居ルノデア、決シテ是ハ所謂  
憲法二十四條ノ臣民ノ權利ヲ故ナク奪フモ  
ノデアアリマセヌ、又裁判官ノ漫常識ガ御  
質問デアリ、御注意デアリマスルガ、之ニ  
對シテハ當該裁判官ハ努メテ理解アル者ヲ  
適所ニ配置セシメテ、サウシテ遺憾ナキ  
ヲ期スル、且ツ本法ヲ執行スル曉ニ於テ  
ハ、司法當局トモ十分懇談シテ、以上ノ不  
都合ノナイヤウニ留意致シマストノ答辯デ  
アツクデアリマス

次ニ質問ノ大切ナル點デアリマスルガ、  
本法案ノ中心點ハ農地委員會ニ存シテ居  
ル、言換ヘレバ、本法ガ所期ノ目的ヲ達成  
スルカ否カト云フコトモ、一ニ懸ツテ農地  
委員會運用ノ如何ニアリト思フ、然ルニ本  
委員ノ選舉ヲ致シマスル順序ヲ見ルト、先  
ヅ市町村長ガ候補者ヲ推薦シテ、ソレニ依  
テ知事ガ任命スルト云フ順序ニナツテ居ル、  
然ル所市町村長ハ是ガ推薦ニ當ツテ、或ハ之  
ヲ政争ノ具ニ爲シ、或ハ自己ノ勢力擴張ニ  
之ヲ利用シタリ、又一部地主階級ニ偏シタ  
リ、又ハ小作人階級ニ偏スルヤウナコトガ  
アリ勝チデア、此點ハドウ考ヘテ居ル  
カ、又是等弊害豫防ノ爲ニ委員會ノ構成範  
圍ヲ市町村單位ニセズシテ、郡單位若クハ

數箇町村單位トスル意思ハナイカ、或ハ又  
定數以上、倍位ノ候補者ヲ推薦シテ、其中  
ヨリ府縣知事ニ適材ヲ任命セシメルコトニ  
シテハドウデア、又各階級、即チ地主小  
作ノ各階級ヨリ一定ノ數ヲ割當テテ、公選  
ニ依ツテ之ヲ選定シテハドウデア、アルカト云  
フヤウナ質問モ行ハレタノデアリマスル  
ガ、之ニ對シテ政府ノ答辯ハ、市町村長ノ  
推薦ハ小作調停法ノ前例モアルノデア、  
主トシテ人格者ヲ推薦スルコトハ勿論デア  
ルシ、又任命ニ當ツテ知事ハ推薦者其儘ヲ默  
諾スルニアラズシテ、小作官其他ノ意見ヲ  
徵シ、色々ナ材料ヲ徵シテ、偏頗ナク人格  
者ヲ任命セシメルヤウニナツテ居ルノデア  
ルカラ、左様ニ御承知願ヒタイ、決シテ  
御心配ノ如キ不都合ハナカラウト思フ、又  
市町村長ノ推薦スル人員等ハ、是ハ將來勅  
令ヲ以テ決メルノデア、更ニ再考ス  
ルコトニ致シテ見ヨウ、構成單位ハ郡單位、  
或ハ數箇町村單位ト云フヤウナ御意見デアリ  
マスルガ、是ハヤハリ市町村單位ニヤッタ方  
ガ適當デアラウト信ジテ居リマス、斯ウ云  
フ答辯デアツクデアリマス

更ニ次ニ農地委員會ハ、全國デ約一萬市  
町村ニ對シテ之ヲ設置スルト云フ計畫デア  
ルラシイガ、實ハ從來小作爭議ノ絶無ノ町  
村ガ可ナリ多イノデア、斯ウ云フ處ニ故  
ラニ機械的ニ農地委員會ヲ設クルコトハ、  
却テ寢テ居ル子ヲ醒シ、平地ニ波瀾ヲ起ス  
ヤウナ弊害ガアルト思フガドウデア、  
且ツ市外地ニハ都市計畫區域地ガアルガ、

且ツ市外地ニハ都市計畫區域地ガアルガ、

此處ニモ設置スルノカ、斯ウ云フ質問デアリマス、之ニ對シテ政府ハ、必シモ全國畫一的ニ設置スルトハ考ヘテ居リマセス、必要ノナイ處ヘハ設置スルコトヲ見合セマス、殊ニ市外地計畫地ナドニハ成ベク設置セザルコトニ致シタイ、斯ウ云フ風ナ答辯ガアツタノデアリマス

其他土地ノ團體所有ヲ認メマスルト、我が國民思想ニ惡影響ハナイカト云フ質問、又本法ヲ制定シテ農地委員ヲ設ケテモ、是ガ運用ニ當ツテ或ハ西洋流ノ自由主義、民主主義ノ思想デ之ヲ運用スルノデハ、却テ是ハ弊害バカリアルノデアルカラ、宜シク農村古來ノ實情、所謂隣保相助ノ精神ニ立脚シテ、日本精神ヲ根柢トセル調停ヲシテ貫ハナケレバ相成ラヌ、殊ニ本法制定同時ニ、全國地主ヘノ啓蒙運動モ最モ大切デアルトノ意見モアリ、又日本ノ農村ハ元來隣保相助ノ温情主義ニ依存シテ成立ツテ居ルノデア

ルガ、本法ニハ此事ヲ全然閉却致シテ居ル、斯クスルコトニ依ツテ我國ノ徳治國ヲ變ジテ法治國トラシメ、農村ノ美風ヲ破壊スルノ憂ガアルト思フカラ、此點ニモ十分留意ヲ願フテ實施ヲシテ貫ヒタイト云フ希望モアリ、更ニ團體所有ヲ認ムルコトニナルト、産業組合ガ多クノ土地ヲ所有スルニ至ルコトニナルガ、其點モ注意シテ吳レト云フ注意、又第九條ニ信義ニ反ストカ、或ハ正當ノ事由アル場合云々トアルガ、是モ字句ガ極メテ不明デアル、殊ニ本法實施ニ依ツテ土地ノ價格ヲ低落サセテ、農村全體ノ所謂農村金融ニ支障アラシメ、土地ニ對スル執著心ヲ

稀薄ナラシムル憂ガアルト思フガ、是モ留意願ヒタイト云フヤウナ希望ガアツタノデアリマス

斯ク致シマシテ質疑大體ヲ打切ツテ討論ニ入ツタノデアリマスルガ、民政黨ノ土屋委員ガ討論ニ御立チニナツテ、政民共同提案ノ左ノ修正案ヲ御提出ニ相成ツタノデアリマス、其修正案ハ或ハ既ニ諸君ノ御手許ニ印刷サレテ配付サレテ居ルカト思フノデアリマスガ(配付シテアリマセス、配付シテ下サイ)ト呼フ者アリ)配付致シマスガ、配付シテナイナラバ茲ニ簡單ニ御説明申上ゲマス、第一條「本法ハ」トアリマスガ、其「本法ハ」ノ次ニ「互讓相助ノ精神ニ則リ」ノ十字ヲ入レテ「本法ハ互讓相助ノ精神ニ則リ耕作者ノ地位ノ安定」云々ト是ガ修正サレタノデアリマス

次ハ第四條デアリマスガ、第四條ニ於テ「道府縣、市町村其ノ他命令ヲ以テ定ムル團體ガ農村ノ經濟更生ノ爲命令ノ定ムル所ニ依リ自作農創設維持又ハ農地ノ貸付ノ事業ヲ行フ場合ニ於テ之ニ」トナツテ居ル、其「自作農創設維持」ノ下ノ「又」カラ「之」マデノ十九字ヲ削除スルコトニナツタノデアリマス(何處ヲ修正シタヤラ分ラヌデヤナイカ)ト呼フ者アリ)法律案ハ既ニ御配布シテアリマス、ソレヲ御覽下サイ(「ナイ」ト呼フ者アリ)原法案ハ各員ニ配付済デアリマス、ナイノハアナタノ怠慢デアリマス(拍手)

小作料ヲ滯納スル等」ト云フ二十三字ヲ挿入スルノデアリマス

更ニ十三條ノ二項ヲ全文削除スルノデアリマス、其結果ト致シマシテ次ノ十四條ノ「第一項」ト云フ三字、及ビ二十一條ノ數文字ヲ削除スルコトハ、是ハ十三條ノ二項ヲ削除スルコトニ依ツテ必然行ハルベキ字句ノ修正デアリマス

斯ク致シマシテ所謂政民共同提案ニ成ル修正案ガ提起サレタノデアリマスガ、之ニ對シマシテ政友會ノ河野委員ヨリ修正案贊成ノ討論ヲ行ハレタノデアリマス、次イデ各小會派ノ諸君ヨリ修正理由ノ質疑ガ行ハレ、其結果第一控室ノ平野委員、社大ノ杉山委員、第二控室ノ中原委員、東方會ノ大石委員ヨリ、ソレノ討論ガ續行サレマシテ、有ユル觀點、角度ヨリ修正案ヲ論難シ、非難サレテ、以上各小會派ハ一致シテ政民提出ノ共同修正案ニ反對シ、政府提出ノ原案其儘ヲ承認スル旨ノ御主張ガアツタノデアリマス、更ニ之ニ續イテ本案ニ對シテ附帶決議ヲ附ケ、此附帶決議ハ各派一致シテ共同ニ提案サレタノデアリマス、茲ニ附帶決議ノ全文ヲ朗讀致シマス、長クハゴザイマセヌカラ、御聽取ヲ願ヒタイト思ヒマス——今一寸原文ガ見付カリマセヌカラ、後刻朗讀致シマス(笑聲)右ニ依ツテ數案ヲ採決致シタノデアリマスガ、採決ヲ起立ニ諮ヒマシタ結果、先ヅ所謂政民共同提案ノ修正案ノ如ク修正スルコトノ可否ヲ起立ニ諮ヒマシタ結果、起立多數ヲ以テ確定サレタノデアリマス、更ニ政民共同提案ノ

修正點ヲ除ケル爾餘ノ政府原案ニ付テ、起立ニ依ツテ贊否ヲ決シタノデアリマスガ、是亦起立多數ヲ以テ可決確定致シタノデアリマス、最後ニ各小會派カラ提出ニナリマシタ政府提出原案全部其儘ヲ承認スルコトノ可否ヲ起立ニ諮ウタノデアリマスガ、少數否決ニナツタノデアリマス、ソコデ附帶決議ヲ採決ニ諮ウタノデアリマスガ、其附帶決議ハ只今此處ニ到達致シマシタカラ朗讀致シマス

附帶決議

一 政府ハ永小作權(民法施行法第四十七條第三項ノ永小作權ヲ含ム)ニ付テハ速ニ調査ノ上所有權者及永小作權者雙方ノ地位安定ノ方途ヲ講スヘシ

二 政府ハ農地委員會ノ設置構成運用ニ付テハ本院ノ論議ニ鑑ミ公平妥當ニシテ且ツ農村自治機能ニ惡影響ヲ及ボササル様慎重ニ對處スヘシ

斯ウ云フ二個ノ附帶決議デアリマス、之ヲ起立ニ依ツテ採決ヲ致シタノデアリマスガ、起立總員、可決ニ相成ツタノデアリマス、以上委員會ノ報告ヲ申上ゲマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 本案ノ委員長報告ハ修正デアリマスカラ、討論ハ便宜上第二讀會ニ於テ爲スコトト致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○服部崎市君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開カレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス、討論ニ入りマス、通告順ニ依ッテ發言ヲ許シマス——石坂繁君

### 農地調整法案

#### 第二讀會

〔石坂繁君登壇〕

○石坂繁君 私ハ只今議題ト相成ッテ居リマス農地調整法案ノ委員長報告ニ付キ、其修正ノ部分ニ反對シ、當初ノ政府提出原案ニ贊成ノ意ヲ表スル者デアリマス(拍手)抑、本法案ノ目的ト致シテ居リマス所ハ、同法案第一條ニ明カデアリマス如クニ、耕作者ノ地位ノ安定及ビ農業生産力ノ維持増進ヲ圖リ、以テ農村ノ經濟更生及ビ農村平和ノ保持ヲ期スル爲メ、農地關係ノ調整ヲ致スト云フニアルノデアリマス、私ハ本法案ノ目的トスル所ヲ深く諒ト致ス者デアリマス、然ルニ其耕作者ノ地位ノ安定ト云ヒ、農業生産力ノ維持増進ト云ヒ、又農村經濟更生及ビ農村平和ノ保持ト云ヒ、現下ノ非常時局ニ於テ、我國ノ農村ニ取リテ何レモ必要缺クベカラザル要項デアアルノデアリマス、唯要ハ果シテ本法ヲ以テ致シマシテ、斯ノ如ク欲スル所ノ目的ヲ能ク達成シ得ルヤ否ヤニアルト存ジマス、私ハ未ダ本法案ヲ以テ

十分ナリト致ス者デアアリマセヌ、併ナガラ農林大臣ガ委員會ニ於テ屢、明言サレマシタ言葉ニ、此法案ヲ以テ十分ナリト致スモノデハナイケレドモ、吾々ノ目的トスル所ヲ先ヅ満足シ得ルモノナリト云フ其言ニ信賴シ、暫ク本法案ヲ認メマシテ、速ニ我國ノ農村ノ現狀ニ即應セル如キ、一層根本的ナル農地制度ノ立法ヲ期待シテ已マナイノデアリマス

〔議長退席、副議長著席〕

然ルニ只今委員長報告ノ如ク、本法案ニ對シマシテ政民兩派ヨリ修正案ヲ御提案ニ相成リ、只今御報告ノ如キ經過ヲ以チマシテ修正案ガ委員會ヲ通過致シタノデアリマス、其修正ノ箇所ハ是亦只今委員長ヨリ御報告ノ通りデアアル、即チ其修正案ノ重要ナル點ハ四箇所デアリマス、之ヲ説明致シマスルナラバ、第一條、第四條、第九條及ビ第十三條第二項ノ削除デアリマス、ソコデ私ハ此主ナル四箇條ノ修正ニ付キマシテ、簡單ニ私ノ意見ヲ申上ゲマシテ、此修正案ヲ批評致シテ見タイト存ジマス

先ヅ第一條ノ修正、是ハ申上ゲルマデモナク、第七十議會ニ提出セラレマシタ所ノ農地法案第一條冒頭ノ文言ヲ移シテ、本法案ノ冒頭ニ加ヘタモノデアアル、即チ本法ハ五護相助ノ精神ニ則ルト云フコトハ、曩ニ農地法案第一條ニ謳ッテ所デアリマス、之ニ對スル委員會ノ質問ニ際シマシテノ農林大臣ノ御答辯ノ趣旨ハ、我國ノ農村關係ハ、五護相助ノ精神ニ依ッテ處理スベキコト固ヨリ當然デアアル、隨テ殊更ニ法律ノ明

文ニ誦ハナカッタノデアアルト云フ御趣旨デアッタノデアリマス、私共我國ノ農村問題ヲ觀察致シマスルニ、全體トシテノ農村ノ問題ハ、此五護相助ノ精神ニ則ルト云フ農村ノ傳統的理由ヲ活カシテ、益、此基調ヲ盛ナラシメント云フ持論ヲ持ッテ居ルモノデアアル、隨テ私ハ此第一條ノ修正ニ對シマシテハ、必シモ其精神ニ於テ反對デハナイノデアアル、併ナガラ是ダケノ言葉ヲ謳ヒマセヌデモ、本法ニ所期シテ居ル所ノ精神ハソコニアルト、農林大臣ノ御説明ヲ諒承スレバ宜シカラウト存ズルノデアリマス

第二點、是ハ第四條デアアル、抑、第四條ハ此農地調整法案ニ於キマシテハ頗ル重要ナル條項デアアル、即チ本法案ハ農地制度ノ改正ニ對スル所ノ根本的基調ヲ含シテ居ルモノナリト、私共ハ觀察シテ居リマスルガ故ニ、第四條ヲ頗ル重要視シテ居ルノデアリマス、隨ヒマシテ其修正ノ文言ハ簡單ノヤウデアリマスルケレドモ、此條文自體ノ修正ハ、私ハ頗ル重要視シテ考ヘテ居ルノデアリマス、抑、土地ノ制度ノ問題ハ、極メテ重要ニシテ且ツ困難ナ問題デアリマス、遠キ昔ハ問ハズ、大化ノ改新ニ於ケル班田收授ノ如キ、其他我國ノ歴史ノ上ニ於キマシテ、幾度カ變遷致シテ居ルノデアリマスルガ、要スルニ限リアル土地ヲ如何ニシテ之ヲ分配致セバ生産力ヲ旺盛ニシ、富ノ平均ヲ保ツコトガ出來ルカト云フヤウナ點カラ致シマシテ、農地制度ハ極メテ重要ナ問題デアリマス、而シテ歷代ノ爲政者ノ最モ頭ヲ悩マシマシタ所ノ問題ノ一ツデアアラウト存

ジマス、明治維新ハ我國ノ歴史上非常ニ大キナ改革デアアル、隨ヒマシテ農地制度ニ關シマシテモ、非常ニ重大ナル改革ガ遂ゲラレタノデアリマスルガ、御承知ノ通りニ明治維新以後、西洋ノ文物制度ガ非常ニ急速ニ輸入セラレ、隨ヒマシテ資本主義ノ經濟組織ガ樹立致サレマシテ、其間ニ於テ農地制度トノ關係ニ於テ之ヲ考ヘマスルト、土地ノ所有權ノ觀念ト云フモノガ確立致シテ參ッタノデアリマス、土地ノ所有權ニ對スル所ノ法律ノ保護ガ完備シテ參ッタ、其爲ニ物質文明ノ非常ナル發達ヲ來シマシタコトハ、勿論申上ゲルマデモナイコトデアリマスルケレドモ、其間ニ於テ我國ノ農業生産ノ最モ重要ナル要素デアアル所ノ農業土地、此土地ヲ利用スルコトニ依ッテ、直接ニ農産物ノ生産ニ從事スル所ノ耕作者、此兩者ノ農地ヲ中軸トシテノ關係ハ、色々ノ問題ヲ胚胎致シテ參リマシタ、隨テ農地ニ對スル所有權ガ發達スレバ發達スルニ連レテ、ソレニ對スル矛盾ハ自ラ集積セザルヲ得ナイヤウナ状態ニ相成ッタノデアリマス、茲ニ農地制度ニ對スル根本的的改革ガ要望サレルニ至ッタ事情ノ伏在ヲ、私共ハ否定スルコトガ出來ナイノデアリマスルガ、更ニ今日ニ於テ私共考ヘマスルニ、今日ノ時局ニ於テ多數ノ出征將士ノコトニ想ヲ致サナケレバナラスノデアリマス、即チ北支ニ、又中支ニ多數出征致シテ居リマスル所ノ皇軍ノ將兵ノ多クハ、中小工業者ノ家族カラ出テ居ル人モ多數アルデアリマセウガ、其大多數ハ農家ノ世帯主、或ハ其子弟デアアル、或ハ自作農モ

アリマセウシ、小作農モアリマセウガ、要スルニ多數農家ノ子弟ヲ送リテ居ルト云フコトハ顯著ナ事實デアル、其多數ノ人々ガ廣漠タル支那ノ平野ニ轉戰又轉戰、到ル處一望際涯ナキ廣イ支那ノ原野ヲ見テ參リマシテ、サウシテ凱旋致シマシタ場合ニ於キマシテ、一タビ支那大陸ヲ見テ來タ所ノ眼ヲ以テ、日本内地ノ狭イ農地ヲ見マスル時ニ、其人達ノ農地ニ對スル考ハ非常ニ違フテ參ルデアラウト私ハ考ヘテ居リマス、サラデダニ農民ハ土地ガ欲シイ、土地ニ飢エテ居ル、小作人ハ自作農ニナリタイ、自作農ハ少シデモ多クノ土地ガ欲シイ、是ガ農民ノ熱烈ナル欲求デアル、此熱烈ナル欲求ト希望ニ副フ爲ニ、私共ハ今日ニ於テ特ニ農地制度ニ對スル根本政策ノ樹立ヲ痛感致シテ居ル者デアリマス(拍手)不日凱旋歸還致シマス將兵ノ土地ニ對スル考ハ、思想的ニモ經濟的ニモ、非常ニ見方ガ異テ參ル、現ニ歐羅巴大戰後ノ歐羅巴各國ニ於ケル情勢ヲ見マスルニ、其多クノ國々ハ歸還兵ノ思想ニ動カサレテ、農地制度ノ改革ヲ爲シタコトハ、其例ガ澤山アルノデアリマス、故ニ私共ハ今日此際ニ於テ、我國ニ於テ最も根本的ナル農地制度確立ノ必要ヲ痛感致シテ居リマス、然ラバ其農地制度改革ノ根本基調ヲ何レニ求ムベキカ、申上グル迄モナク、是ハ今日ノ所有權ノ觀念ニ對スル所ノ是正サレタ思想ヲ、ソコニ盛ラナケレバナラスト、私ハ斯様ニ考ヘテ居ル、歐羅巴ノ中世ヨリ十九世紀ヲ經テ二十世紀ニ至ル、其經濟制度、法律制度ノ過渡

的事情ヲ考ヘテ見マスルニ、中世紀ニ於テ個人ノ權利ガ認めラレナカッタ、ソレガ個人ノ解放トナリ、所有權ノ觀念トナリ、契約自由ノ原則トナッタノデアリマス、ソレガ今日ノ資本主義ノ文化ヲ樹立シタコトモ私共否定致シマセウガ、今日ノ所有權ニ對スル所ノ觀念ハ、徐々ニ變化シツ、アルト云フコトヲ、私共ハ否定致スコトハ出來ヌノデアリマス、之ヲ歐羅巴ノ法制ニ付テ考ヘマスルニ、明ニソレヲ法文ノ上ニ謳ヒマシタ所ノ法制モアル、即チ獨逸ノ「ワイマー」憲法百五十三條ノ如キ、所有權ハ義務ヲ負フト云フ規定ヲ書イテ居ル、サウシテ其所有權ノ行使ハ同時ニ公共ノ爲ニ役立ツモノデナケレバナラスト云フ規定ヲ書イテ居リマス、瑞西民法第二條第一項ニ於テ信義ノ原則ヲ規定シ、同條第二項ニ於テ權利ノ明白ナル濫用ハ法律ノ保護ヲ受ケズト規定致シテ居ル、我國ノ法制ニハ斯ノ如キ明文上ノ規定ハゴザイマセウケレド、現實ニ判決ヲ下サナケレバナライ所ノ裁判所ハ、是等ノ思想ノ影響ヲ著シク受ケテ居ル、サウシテ一方ニ於テハ我ガ民法第九十條ノ公序良俗ノ條文ヲ持チ、或ハ又權利濫用ノ思想ヲ取入レマシテ、所有權ニ對スル所ノ判決ハ徐々ニ變化シツ、アル傾向ニアルコトハ、是ハ認メナケレバナラスト、所有權ヲ否定スルニアラズ、公衆ノ福祉ノ爲ニ、全體ノ利益ノ爲ニ、所有權ハ用ヒナケレバナライト云フ思想ノ傾向、即チ裁判所ハ憲法ニ依ッテ絕對的ニ保障サレテ居ル所ノ所有權、此所有權ノ絕對性ニ執著ヲ持チ

ナガラ、一面社會生活ノ協同性ヲ顧慮シ、權利濫用ノ理念ヲ全面的ニ適用シツ、アル狀況デアルコトハ、私カラ申上ゲル迄モナク、諸君ノ御諒承ノ所デアラウト存ズルノデアリマス(拍手)即チ所有權ノ絕對性ト云ヒ、又契約自由ノ原則ト云ヒ、社會的妥當性ヲ條件トシテノミ存續ヲ認メラレ、且ツ存續ノ必要ガ認めラレルヤウナ傾向ニ變リツ、アルト云フコトハ、之ヲ認メナケレバナラストノデアリマス(拍手)是ハ單ニ外國ノ思想ノ影響トバカリ申上ゲマセウ、我國ハ古來傳統的ニ此思想ガアル、即チ公地公民ノ思想ト云ヒ、或ハ陛下ノヨサシ給フマニ、分ニ應ジテ所有權ヲ持ッテ居ルト云フ、此思想ハ明文ノ上ニマダナイカモ知レマセウケレドモ、我國ノ傳統的三千年ノ歴史ノ上ニ、國民思想ノ中ニハ是ガ傳ハッテ來テ居ル思想デアルト私ハ考ヘル(拍手)農林大臣モ委員會ニ於テ左様ナル思想ノアルコトハ認メル、斯ウ仰セラレテ居ルノデアリマス、私ハ斯様ナル意味合ヲ以チマシテ、我國ノ傳統的思想ヲ回顧シツ、其思想ヲ以テ所有權ニ對スル所ノ觀念ヲ再檢討シテ、國家全體ノ大局ヨリスル考ヲ深クシナケレバナライト云フ、斯ウ云フ考ヲ持ッテ居ルノデアリマス、ソレガ私ハ今日ノ土地制度ニ對スル所ノ根本ノ基調デアッテ欲シイト云フノガ私ノ思想デアアル(拍手)

ノ實際ヲ見マスルニ、農林當局ノ御調査ニ依リマスレバ、昭和十一年度ハ田三百二十二万町歩、畑二百八十七万町歩、此合計六百九万町歩、之ヲ我國ノ全面積三千八百五十七万町歩ニ比較致シマス、僅ニ田八分三厘、畑七分四厘、合計一割五分七厘ニ過ギナイ、而シテ農家戸數五百五十九万戸ニシテ、昭和十一年度ノ調査ハ自作農三割九厘、小作農二割七分一厘、自作農兼小作農四割二分ト云フ狀況デアアル、サウシテ農家一戸ノ耕地面積ハ田五段七畝、畑五段一畝、合計一町八畝ニ過ギナイ、斯様ナ狀態デアリマスカラ、斯様ナ實情ニアル所ノ我國農村ニ對シマシテ、農林大臣ガ之ニ臨マレル所ノ態度ハ如何デアアルカト云フコトヲ検討シテ見マスルト、十八回ニ及ブ委員會ノ速記録ヲ通覽シテ見マシテ、農林大臣ノ御意見ヲ付度要約致シマスレバ、第一ハ我國ノ農業政策ハ耕作者本位ニスルト云フコト、而シテ第二ニハ自作農維持ヲ中心トシテ、更ニ之ニ自作農ノ創設ヲ相當考ヘルト云フコト、是ガ現有馬農林大臣ノ現下ノ我國ノ農村ニ對スル所ノ大方針デアアル、私ハ此御態度ト御所見ニ對シマシテハ贊意ヲ表スル者デアリマス、然ルニ大正十五年自作農創設維持規則ガ實施セラレテ以來今日マデ、果シテ自作農創設維持ハ其效果ヲ擧ゲタルヤ否ヤト云フ問題ガ出テ來マスガ、不幸委員會ニ於テハ政府ノ所見ト吾々ト意見ヲ異ニスルコトヲ發見シタ、此統計ニ付テ申上ゲタイノデアリマスガ、何レモ本邦農業要覽ヲ引用致シタモノデアリマスカラ省略ヲ

致シマス、皆様ノ御承知ノ通りデアラウト  
思ッテ省略致シマス

ソコデ然ラバナゼ其自作農創設ノ方法  
ガ、ソレダケ效果ヲ擧ゲルコトガ出来ナカッタ  
カ、農林大臣ニ言ハセマスト、若シ自作  
農創設維持規則ナカリセバ、モウ少シク多  
數ノ自作農ガ没落シタデアラウ、斯ウ云フ  
風ノコトヲ申サレマシテ、其意味ニ於テ本  
邦ノ自作農創設維持規定成功セリト云フガ  
如キ御口吻デアアルノデアリマス、私ハ左様  
ニ存ジマセヌ、私ノ見タ所ヲ以テ致シマス  
レバ、自作農ノ此制度ガ著シク成功致スコ  
トガ出来ナカッタノハ、此創設ノ方法ニ強制  
主義ヲ加味シテ居ラナカッタカラデアルト  
云フ、斯様ヲ結論ヲ私ハ持ッテ居ルノデアリ  
マス、此觀點カラ致シマシテ本法ヲ見マス  
ル時ニ、殊ニ第四條ノ規定ニ於テハ、私ハ  
適切ナル規定ナリトシテ、此原案ニ一層強キ  
贊意ヲ表シテ居ッタモノデアアル、此法案ノ所  
期致シテ居リマスル所、殊ニ第四條ノ目的  
ト致シテ居リマスル所ハ、申上ゲル迄モナ  
ク此條文ノ活用ニ依ッテ、先ヅ不在地主ノ地  
所ノ整理、大地主ノ地所ノ制限、而シテ又  
銀行會社ト云フヤウナモノガ、例ヘバ擔保  
流レト云フヤウナコトニ依ッテ取得サレタ  
所ノ土地ニ對スル制限、斯様ナコトヲ目的  
トシテ居ルコトハ、其趣旨ニ於テ強ク親フ  
コトガ出来ルノデアリマス、而シテ斯様ナ  
ル地主ノ土地ヲ制限シ、或ハ整理スルコト  
ニ依ッテ、眞ニ其町村ニ在ッテ耕作ニ從事シ  
テ居ル所ノ人達ニ、適正ニ妥當ナル耕地ノ  
分配ヲシヨウト云フ所ニ、本案ノ非常ニ良

イ所ガアルト私ハ考ヘテ居ル、然ルニ政民  
兩派ニ依ッテ御修正ニナリマシタ案ハ、此第  
四條中農地ノ貸付ノ事業ヲ行フコトヲ削  
ラレタノデアリマス、私ハ此修正者ノ御  
説明ヲ極メテ冷靜ニ、極メテ沈著ニ、滿  
腔ノ敬意ヲ以テ傾聴致シタノデアリマスル  
ケレドモ、其御説明餘リニ簡ニシテ、私  
ノ不敏ナル爲カ、何故ニ斯ノ如キ修正ヲサ  
レタカト云フ趣旨ヲ、徹底的ニ十分ニ諒解  
スルコトガ出来ナカッタノデアリマス、私  
ノ諒解ニシテ或ハ間違ッテ居ルカモ知レ  
マセヌガ、修正者ガ此修正ヲサレマシタ其  
理由ノ一ツト致シマシテハ、産業組合ト  
云フヤウナモノガ土地ヲ兼併スルコトヲ  
恐レルト云フヤウナ趣旨モアツタヤウニ想  
像サレマス、併ナガラ實際問題ト致シマシ  
テ、産業組合ハ果シテ修正者ノ心配サレマ  
シタ如キ、廣イ土地ヲ長ク持ツコトガ出来  
ルデアリマセウカ、ドウデアリマセウカ、  
私ハ左様ニアラズト考ヘル、故ニ此點ヨリ  
スル本條ノ修正ナラバ、是ハ少シク私ハ杞  
憂ニ失シテ居ル修正ナリト考ヘマス、或ハ  
又此心配ヲ除去致シマスル爲ニハ、別ニ命  
令ヲ以テ其事業内容ニ付テ一定ノ準則ヲ定  
メル、別ニ勅令ヲ以テ事業内容ノ準則ヲ定  
メサヘスレバ、其杞憂ハ自ラ除去サレルノ  
デハナイカト私ハ考ヘテ居ルノデアリマス、  
而モ現ニ貸付ヲヤッテ居ル産業組合ハ多數  
ニアアルト思フ、尙又縣營ノ新地ヲ築造シ、  
縣營ヲ以テ貸付ケテ居ル縣モアル、或ハ又  
舊郡制時代ニ新地ヲ築造シテ、今日公共團  
體ヲ以テ貸付事業ヲヤッテ居ル團體モアル

ノデアリマス、左様ニ致シマシテ此事業内  
容ニ一定ノ基準ヲ置イテ、ソウシテ本當ニ  
農村ノ更生ヲ圖ルト云フ、此趣旨目的ノ爲  
ニ貸付ノ事業ヲ行フト云フコトハ、決シテ  
私ハ不當ナル法律ノ條文デハナイト考ヘル  
者デアリマス、又一説ニ伺ヒマスルト、自  
作農創設維持マデノ過渡ノ時期ニ於テハ、  
産業組合モ土地ノ貸付事業ヲヤッテモ宜シ  
イ、斯ウ申サレルノデアリマスルカラ、若  
シ果シテ左様ナレバ、ナゼ此條文ヲ特ニ削  
除セネバナラヌカト云フコトヲ、私ハ益々諒  
解致スコトガ困難ニナッテ參ルノデアリマ  
ス、更ニ十三條ノ第二項ノ削除ノ問題ハ、  
此第四條ト關聯致シマスルガ故ニ、便宜第  
四條ノ次ニ論ジタイト思ヒマスルガ、此十  
三條第二項ハ、修正者曰ク、是ハ傳家ノ寶  
刀ダ、容易ニ抜クベキモノデハナイカラ、條  
文ノ上ニ存置セヌデモ宜シイデハナイカ、  
或ハ又協議整ハナイモノハ裁判所マデ持ッ  
テ行クト云フコトハ妥當デナイト云フ、是ダ  
ケノ説明ノヤウニ私ハ伺ッタノデアリマス、  
傳家ノ寶刀ハ、政府ノ説明ト修正者ノ説明  
ト、其動機同一ナリトハ申シマセヌケレド  
モ、傳家ノ寶刀ヲ以テ此法律ヲ説明サレマ  
シタノニ、第九條ノ裁判ノ問題ガアル、是  
ハ私ハ別ニ論ズル、第十三條第二項ヲ傳家  
ノ寶刀ナリト致シマスルナラバ、傳家ノ寶  
刀ハ存スコトニ依ッテ、傳家ノ寶刀トシテノ  
效力ガアルノデアアル(拍手)傳家ノ寶刀ハ勿  
論容易ニ抜クベキモノデハナイ、容易ニ抜  
クベキモノデハナイカモ知レヌガ、傳家ノ  
寶刀一振ヲ持ッテ居ルト云フコトニ、其中

ニ無限ノ妙味ガアルト云フコトヲ看取シナ  
ケレバナラヌノデアリマス、ソコヲ能ク味  
ハッテ戴キタイ、假ニ數百歩ヲ譲リマシテ、  
第四條ヲ修正者ノ御意見ノ如ク、土地貸付  
ノ場合ヲ除クトシテ考ヘテ見マシテモ、第  
四條ハマダ重大ナル使命ガ殘ッテ居ル、即チ  
農村ノ經濟更生ノ爲ノ自作農創設維持ヲ目  
的トシテノ土地ノ取得ト云フモノガ殘ッテ  
居ル、サウシテ其取得スル方法ハ協議ヲス  
ルト云フコトナンデス、協議ヲシテ協議ガ  
整ハナカッタ場合ニドウナルカト云フ規定  
ヲ置カナケレバ、此第四條ハ死文ニ等シイ  
ト言ウテモ過言ニアラズト思フノデアリマ  
ス、此條文ヲ假ニ百歩ヲ譲ッテ、貸付ノ場合  
ヲ削除スルト考ヘテ見マシテモ、今申上ゲ  
マシタヤウナ條文ガ殘ル、此殘ル條文ニ對  
シテ若シ十三條第二項ノヤウナモノガナ  
カッタナラバ、更ニ新シク加ヘルコトニ依ッ  
テコソ、畫龍點睛ノ終リヲ全ウスベキデア  
ラウト思ヒマスノニ、傳家ノ寶刀ガカラ要  
ラナイト云フ、斯ウ云フ修正ヲ爲サル方  
ハ、傳家ノ寶刀ノ意味ノ解釋ニ於テ、私共  
ト天地ノ相違アリト言ハナケレバナラヌト  
思ヒマス(拍手)私ハ第四條ヲ全部抹殺スル  
ナラバ別デアアルガ、併ナガラ修正者側ノ御  
所見ヲ以テ致シマシテモ、第四條ヲ殘スノ  
デス、第四條ヲ殘ス以上ハ、其時アッテカ  
發動ヲシナケレバナラヌヤウナ傳家ノ寶  
刀——十三條第二項ヲ殘スコトハ絕對ニ必要  
ナリト私ハ考ヘテ居ルノデアリマス

而シテ更ニ第九條ノ問題、第九條ノ問題  
ガ一番論議ノ中心トナリマシタノハ、信義

ニ反シタト云フコトナシ、是ガ曖昧ダ、分ラヌデヤナイカト云フ御議論ガ多分ニアツタヤウデアリマスルガ、果シテ信義ニ反シテト云フ言葉ハ、ソレ程分ラナイ言葉デアリマセウカ、ドウデアリマセウカ、私カラ色々先輩ニ申上ゲル積リハゴザイマセウガ、今日ノ法律ノ觀念ヲ以テ致シマシテ、今日ノ債權法ノ基調ハ、多ク論ズル迄モナク、信義ノ原則ヲ基調トシテ成立セル所ノ法制デアル、佛蘭西民法千百三十四條ノ如キ、獨逸民法二百四十二條ノ如キ、瑞西民法第二條ノ如キハ、何レモ信義ノ原則ト云フコトヲ謳ツテ居ル、我國ノ民法、殊ニ債權法ハ、此信義ノ原則ト云フ言葉ハ用ヒテ居リマセウケレドモ、債權債務ノ關係ニ於テ信義ノ原則ニ則ツテ行動スベシト云フコトハ、學說、判例一ツモ争フナイ所デアリ、頗ル明瞭ニシテ、長イ間既ニ熟シタル言葉デ、私ニハ此言葉ヲ削除スル意味ガ分ラヌノデス、或ハ御説明ヲ伺ヒマスト、ソレデハ分ラヌカラ「宥恕スベキ事情ナキニ拘ラズ小作料ヲ滞納スル等信義ニ反シタル」斯ウ云フコトニ御修正ニナツテ居ル、ソレナラバ伺ヒマシガ、信義ノ原則ハ御分リニナラヌデモ、宥恕スベキ事情ト云フコトハ、爾ク簡單明瞭ニ分ルカドウカト云フコトナシ、私ノ頭ヲ以テ致シマシレバ、此修正案ハ信義ノ原則ノ方ハ、ソレハ少シハキリシタヤウナ氣持ガスルカ知リマセウケレドモ、一ツノ疑問ニ新シキ宥恕スベキ事情ト云フ別ノ疑問ヲ持ッテ來タニ過ギナイ、法律的ノ用語ノ點カラ考ヘ、立法技術ノ點カラ

考ヘテ見テ、私ハ此修正案ヲ了解スルコトガ出來ナイノデアリマス（拍手）私ハ斯様ニ各修正ノ箇所ノ中、直接條文ノ内容ニ觸レマシタ中ニ付キマシテ、甚ダ非禮ヲ顧ミズ、私ノ所見ヲ申上ゲマシテ、修正反對ノ意見ヲ述ベサシテ戴イタノデアリマス、若シ修正ヲスルナラバ、私ハモウ少シ、何故全面的ノ大修正ヲ爲サラナカッタカ、斯様ナ疑問モ浮ブノデアリマス、質問應答ノ其途中ニ於テ、此法律案ハ實體規定ヲ缺クカラ適當デハナイデハナイカト云フ質問ガ澤山出テ居ル、若シ斯様ナル意見ニ依ツテノ御修正ト致シマスルナラバ、何故小作關係ノ有ユル場合ヲ網羅シテ、即チ小作料ノ關係、小作期間ノ問題、其他小作ニ關スル所ノ有ユル權利ヲ網羅シテサウ云フ法律案ニシテ、サウシテ本法ノ自作農創設維持ノ規定及ビ爭議調停ノ規定以外ニ、ソレダケ纏々小作立法トシテノ御修正ナラバ、私共ハ非常ニソレニ對シマシテハ一層ノ敬意ヲ拂フベキ筈デアッタラウト思フノデアリマスルガ、此修正ノ程度ヲ以テ致シマシテハ、重ネテ申シマスルガ、其説明餘リニ簡ニシテ、私ノ不敏ナル能ク諒解スルコトガ出來ナイノデアリマス、昔孟子ハ梁ノ惠王ニ五十歩ニシテ百歩ヲ笑フ者ノ不可ナルコトヲ教ヘタ、私ハ此修正案ヲ以テ五十歩ニシテ百歩ヲ笑フモノナリナドト云フ、左様ナル非禮ノ言ヲ爲ス者デアリマセウケレドモ、此古ノ孟子ノ言ガ何故カ私ニハ思出サレルノデアリマス、私ハ斯様ナル意見ヲ以テマシテ本修正案ニ反對シ、政府提出ノ原案ニ贊成ヲ

致ス者デアリマスルガ、私ハソレ故ニ政府提出ノ原案ヲ十分ナリトシテ贊成ヲ致ス者デハナイノデアリマス、私ノ今マデノ意見開陳ノ中ニ、自ラ私ノ所信ハ御諒察下サツタコトト思ヒマスルガ、私ハ此原案ニ對シテ、將來此原案ヲ實施スルコトニ依ツテ、更ニ新シイ完全ナ、サウシテ此法律案ノ實施ノ經驗ニ基イテ所ノ、新シイ農地制度ノ根本的立法ヲ期待シテ已マナイノデアリマスガ、私共此法案ノ實施後ニ於ケル所ノ希望ヲ最後ニ一纏メニシテ申上ゲタイト存ジマス

希望意見

一、我國農村ノ現狀ニ鑑ミ速ニ土地制度ノ根本的法制ヲ立案スヘシ  
 一、本法ノ實施ニ當リテハ重點ヲ耕作者ニ置クヘシ  
 一、自作農創設維持ノ事業ト併行シ治山治水竝ニ用排水ヲ完備シ耕地整理ヲ強行スヘシ  
 一、農地委員會ノ構成、設置竝ニ廢止及ビ委任ノ解任ニ對シテハ最モ公正妥當ヲ期スヘシ  
 一、本法ニ關スル命令ヲ發シ又ハ裁判ヲ爲スニ當リテハ常ニ農村ノ實情ニ即シテ誤ラザル様特ニ裁判所ニ對シテハ嚴重ナル注意ヲナスヘシ  
 此五箇條デアリマス、其希望意見ノ内容ニ付テ逐一申上ゲタイノデアリマスルケレドモ、時間ノ都合上ソレハ省略シマス  
 更ニ私ハ最後ニ一言申上ゲタイ希望ヲ持ッテ居リマスルガ、ソレハ今日内地ニボツボツ歸還致シテ居リマスル所ノ出征將兵ニ關シテデアリマス、一見恰モ農地調整法案トハ縁ガ遠イヤウデアリマスルケレドモ、決シテサウデハナイ、ト申シマスノハ、長イ間楠風沐雨、本當ニ苦戰致シマシテ、幸ニ武運目出度ク歸還致シマシタ人達ニ對シマシテ、吾々ハ滿腔ノ熱誠ヲ以テ之ヲ歡迎シ、其家族ハ勿論、郷黨ノ人又無限ノ感慨ヲ以テ之ヲ歡迎スルコト云フコトハ想像ニ難クアリマセウ、而シテ是等ノ人ガ體テ産業ノ生産力ノ中心トナリ、農村ノ中心トナリ、農村ノ生産力ノ擴充強化ヲ圖ル第一線ニ立ッテ來ル、所デ折角武運長久デ凱旋致シマシタ是等ノ人々ガ、支那ノ風土病、或ハ支那ノ不衛生ナル病菌、斯ウ云フヤウナモノニ對シテ、多少デモ健康ヲ害シテ居ルヤウナコトガアリマスナラバ、洵ニ御氣ノ毒ナコトデアリ、又憂慮スベキコトデアアルノデアリマス、此點ニ關スル私ノ言葉ハ甚ダ不十分デアリマスルケレドモ、ドウゾ私ノ言外ノ餘情ヲ御察シ下サイマシテ、農林大臣ハ農地調整法ニ依ツテ農村ノ更生、其平和ヲ維持セントスル此首途ニ當ツテ、軍部大臣或ハ厚生大臣トモ能ク此點ニ付テノ御協議ノ上善處アラントラ、最後ニ衷心ヨリ希望致ス次第デアリマス（拍手）以上ヲ以テマシテ私ノ修正案ニ對スル反對、政府原案ニ對スル所ノ贊成ノ意見ト致シマス（拍手）

○副議長（金光庸夫君） 土屋寬君

（土屋寬君登壇）

○土屋寬君 我ハ民政黨ヲ代表致シマシテ委員長ノ報告ニ贊成シ、之ニ異ナル意見ニ反對致シマス、國民生活上直接ノ關係ヲ有

スル農地ニ關シマシテ、其法制ノナイコトハ遺憾ニ堪ヘヌ次第デアッタノデアリマス、昭和四年ニ自作農創設維持助成資金特別會計法案ガ初メテ議會ニ提出致サレマシテ、昭和六年ニ小作法案ガ提出セラレ、昭和十二年ニ農地法案ガ提出致サレマシタガ、何レモ不成立ニ終ツタノデアリマス、社會ノ複雑化ニ伴ヒマシテ、農民ハ農地制度ノ確立ヲ希フコト切ナルモノガアルノデアリマス、農地制度ヲ確立シ、農業經營ヲ合理化シ、以テ農業生産ヲ旺盛ナラシムルコトハ、刻下ノ喫緊事ナリト信ズル次第デアリマス、本議會ニ農地調整法案ガ提出セラレマシタノハ(發言スル者アリ)洵ニ當ラ得タモノト信ズルノデアリマス

農地調整法案ヲ檢討致シマスルニ、條章ハ委員長ノ報告通り二十二箇條デアリマス、十八回ノ委員會ノ審議ノ結果、委員長ノ報告通り修正決議セラレタノデアリマス、私ハ此委員長報告ニ贊成ノ意見ヲ述ベマスルニ當リマシテ、修正ニ關スル個所ニ對シテ意見ヲ申述ベマス

第一條ニ「互讓相助ノ精神ニ則リ」ト云フコトガアリマシタ、其理由ハ本案ノ條章ガ洵ニ少ウアリマシテ、適用ノ範圍ガ非常ニ廣イノデアリマス、特ニ農地委員會ノ如キハ、自作農創設維持、小作關係ノ調整、農地ノ交換分合、其他農地ニ關スル事項ヲ處理スルノデアリマスガ故ニ、總テノ關係者ガ互讓相助ノ精神ニ則ラナケレバ、法ノ活用ヲ期スルコトハ出來ナイト信ズルノデアリマス、互讓相助ノ精神ハ、我國古來ノ

傳統的美風ト稱スベキ隣保相助ノ精神ニ基ク最モ中正穩健ナル思想デ、我國特有ノモノデアリマス、此精神ハ法ノ力ヲ超越セル道義的共同精神ノ結晶デアリ、農村ガ能ク和合シ、能ク一致シ、相協力シテ家ヲ立テ、村ヲ愛シ、國ヲ護ル、旺盛ナル盡忠報國ノ精神ノ根源デアルト信ジマス(拍手)第一條ノ冒頭ニ此字句ヲ挿入致シタルノモ亦此故デアリマス

次ニ第四條第一項ニ付テ申上ゲマス、此第四條第一項ノ修正ニ對シマシテ、修正反對ノ御意見トシテ石坂君ヨリ先ニ御述ニナリマシタ、私ハ委員會ニ於テ修正意見ヲ述ベタノデアリマスガ……

〔何故改惡シタ〕ト呼ヒ其他發言スル者多シ

○副議長(金光庸夫君) 三宅君ニ注意致シマス

○土屋寛君(續) 私ハ産業組合ノ土地兼併ヲ慎レルト云フコトハ申シテ居リマセヌ、ソレヲ豫メ申シテ置キマス、次ニ此第四條ノ第一項ヲ修正スルト共ニ、第十三條第二項ノ修正ヲ一緒ニシタノデアリマス、第四條ノ修正ハ、貸付事業ヲ削除スルト云フコトニナツテ居ルノデアリマス、此貸付事業削除ニ對シテ、石坂君ヨリ相當ニ御非難ガアッタヤウデアリマス、此第四條ノ第一項ノ貸付事業ト云フ所ガ削除ニナリマシタ理由ハ、政府ノ説明ヲ承リマスレバ、自作農創設維持ヲ爲ス場合ノ過渡的必要ノ規定デアルケレドモ、一時貸付スルニ於テハ、無ケレバ無クテモ差支ハナイト云フ意味デアッタノ

デアリマス、然ルニ委員會ノ討論ニ際シマシテ、貸付ヲ削除スルコトハ不當デアルトノ議論ガ出タノデアリマス、其論旨トセラ、所ハ、産業組合ノ貸付事業ガ出來ナクナル、又ハ不在地主ノ土地ヲ取得シテ貸付ヲ行フコトガ出來ナクナルト云フノデアリマス、産業組合ノ貸付事業ハ、如何ナル性質ノ事業デアルカト云フコトヲ明ニスル必要ガアリマス、産業組合ガ所有ノ土地ヲ貸付スルノニハ、本法ニハ關係ハナイノデアリマス、即チ本法ニハ經濟更生ノ爲ニスル事業デアツテ(何故ソレヲ言ハスカ)ト呼フ者アリ)行政官廳ノ認可ヲ受ケ取得シタルコトガ必要條件デアリマスガ故ニ、産業組合ノ所有地貸付ニ關係ナキノミナラズ、産業組合組織ニ依ル土地利用組合ノ土地利用ニ、何等ノ影響ヲ及ボスモノデアリマセヌ(拍手)又不在地主ノ土地ヲ取得シテ貸付ヲ行フコト云フ論旨ハ、聊カ明瞭ヲ缺クノ點ガアリマスガ、不在地主ニ致シマシテモ、現住地主ノ土地ニ致シマシテモ、經濟更生ノ爲メ自作農創設維持ヲ行フ必要上、行政官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要スルノデアリマスガ故ニ、前段申述ベマシタ一時の貸付ニ支障ノナキ限り、必要ノアル規定デハナイノデアリマス、若シ自作農創設維持以外ニ貸付事業ヲ行フコトヲ認め、又第十三條第二項ノ小作調停法ノ準用ニ依ツテ、土地ヲ取得セントスル意味ニ於テ必要ダト言ハレ

ル論旨ト致シマスルナラバ、尙更削除致サナケレバナラヌノデアリマス(拍手)國策トシテ自作農創設維持ヲ行フ爲ニ、大正十五年

ヨリ昭和十一年迄ニ一億六千三百万圓ノ貸付ヲ致シテ居リマス、昨年ヨリ二十五箇年計畫デ十億圓ノ金ヲ融通致スコトニナツテ居リマス、斯様ニ多額ノ金融ヲ圖ツテ、自作農創設維持ヲ致シテ居ルニ拘ラズ、小作調停法ヲ準用シテ土地ヲ得セシメ、貸付事業ヲ行フ地主ヲ作ル必要ハナイノデアリマス(拍手)農家ヲ自作農トスル爲ニ國策ニ依ツテ多額ノ金融ヲ圖リツ、一面ニ於キマシテ貸付事業ヲ行フコトヲ法律ニ定ムルト致シマスレバ、ソレハ明ニ自作農創設維持政策ノ自殺デアリマス、第十三條第一項ノ削除ノ點ハ、自作農維持創設ニ必要ナル農地ヲ地主ガ賣渡サザル爲ニ、小作調停法ヲ準用シテ之ヲ取得セシメヨウト云フコトハ、私ハ妥當ナラザルモノト信ジテ削除ノ意見ヲ持ツタノデアリマス、斯ノ如キ法律ガ出來マスレバ、將來耕作セザル者ハ農地ヲ所有セヌコトニナリマスノミナラズ、農地ノ價格ヲ低落セシムル結果トナリマシテ、直チニ農村ノ金融ニ大ナル影響ヲ來シマス、頑迷ナル少數地主ヲ對象トシテ、之ニ處スル意味ニ於テ法ヲ定ムルト云フコトハ、社會公益ヲ害スルモノデアツテ、思ハザルモ甚シキモノト言ハザルヲ得ヌノデアリマス、一般的ニ地主ニ向ッテ適用セントスル意思ナラバ、何故第一番ニ小作法ヲ制定シナイノカ、次ニ土地所有制限ノ法ヲ定メザルカト云フコトニナルノデアリマス、強制的ノ方法ニ依テ自作農創設維持ヲ爲サントスレバ、自作農ト小作農ノ状態ヲ徹底的ニ調査シ、而シテ自作農減少ノ原因ヲ除去シ、統計ニ現レテ居ルガ如

少ノ原因ヲ除去シ、統計ニ現レテ居ルガ如

キ、年々小作農ノ増加セヌヤウナ政策ヲ執  
ラネバナリマセヌ

此場合自作農減少ニ付テ申上ゲマス、自  
作農ノ減少ハ、小作農ニ轉落スル者ト、農  
業ヲ捨テ、都會ニ走ル者ト、二ツニ區別ス  
ルコトガ出來ルト思フノデアリマス、小作  
農ニ轉落スル者ハ、經濟上ノ關係ニ於テ小  
作農トナルノデアリマス、都會ニ走ル者ハ、  
農家經濟ノ不利ナルガ故ニ、農地ヲ他人ニ

小作セシムルカ、又ハ賣却シテ其地ヲ去ル  
ノデアリマス、而シテ其原因ハ、農産物價  
ト農家必需品ノ價格差ノ爲ニ、非常ナル損  
失ヲ受クル點デアリマス、農家ノ賣却スル農  
産物價格ノ變動ト、農家必需品ノ價格ノ變  
動トノ缺狀ノ差ニ依ッテ損失ヲ受クルノデ  
アリマス、此農家ノ損失ニ對シテハ、何人  
モ肯定スル經濟現象デアリマス、今次事變  
ニ伴フ物價ノ變動ハ、如何ナル狀態ニ於テ  
農村經濟ニ現レルカ豫測シ難キモ、必ズ事  
變後ニ一大變化ヲ來スコトハ、將來ノ例ニ  
徴シテ相當甚シキモノデアアルコトヲ豫想ス  
ルト同時ニ、自作農減少モ亦必然ノ結果ト  
思フノデアリマス

次ニ農村負擔ノ過重ナル點デアリマス、  
今更茲ニ申上ゲル迄モナク、此明々白々タ  
ル負擔ノ不均衡ハ未ダ是正致サレマセヌ、  
其次ニ農家ノ勞力分配ノ適正ナラザル點デ  
アリマス、農家ニ農繁期アリ、農閑期ガア  
リマス、此勞力分配ヲ適正ニシナケレバ、農  
家ノ收入ハ増加致シマセヌ、農業ノ性質上、  
農繁期ニ要スル勞力ヲ常ニ備ヘテ置カナケ  
レバナリマセヌ關係ヨリ致シマシテ、餘剩

勞力ガアルノデアリマス、統計ニ依リマシ  
テ農家ノ過剩勞力ガ澤山アルト云フ見方ヲ  
スル人モアリマスガ、是ハ過剩勞力デハア  
リマセヌ、餘剩勞力デアアルノデアリマス、  
餘剩勞力ヲ活用致スコトニ依ッテ、農家ノ收  
入ガ増加スルノデアリマス、餘剩勞力ヲ完  
全ニ活用シ得ル方途ヲ、政策上立テナケレ  
バナラヌコトト思ヒマス

次ハ農民生活ガ文化發達ノ線ニ沿ウテ向  
上セネバナラヌ點デアリマス、此點ハ詳細  
申述ベタイノデアリマスガ、農民悲惨ノ狀  
態ヲ申述ベルコトニナリマスカラ、私ハ是  
ハ省略致シマス、以上ノ如キ事情ニ依リマ  
シテ、自作農ガ小作農トナリ、又ハ村ヲ捨  
テル爲ニ自作農ガ減少スルノデアリマスカラ、  
之ヲ除去スル方法ヲ先決問題トシ、而シテ自  
作農強制制定ノ政策ヲ採ルベキ順序ナリト  
信ズルモノデアリマス、此機會ニ於テ、石坂君  
ヨリ第四條ノ自作農制定ニ關スル強制規定  
ヲ除クノハ、宜シクナイト云フ御意見ガアリ  
マシタカラ一言附加ヘテ置キマス、自作農強  
制制定ノ方法ハ歐羅巴ニモ澤山アリマス、歐  
洲大戰後ニ於テ特ニ甚シキモノハ東歐羅巴諸  
國デアリマス、其東歐羅巴諸國ニ於テ行ハレ  
タル土地政策ノ中、強制自作農制定ノ方法ガ  
採ラレテ居ルト云フコトハ、農地政策ヲ論  
ズル者ノ見落スコトノ出來ナイ問題デアリ  
マス、此自作農強制制定ノ方法ハ、必ズヤ  
農地ノ所有限度ヲ定ムルコト、農地ノ賣買  
ニ一定ノ制限ヲ加ヘルコト、是ハ絶對的必  
要條件デアリマス、今日我國ニ自作農ノ強  
制制定ノ方法ヲ採ルト致シマスレバ、前ニ

申上ゲマシタ如ク、農村金融界ニ非常ナル  
影響ヲ來スノデアリマスカラ、強制制定ノ  
方法ハ決シテ微温的ニ採ルベキ政策デハナ  
イノデアリマス、自作農強制制定ノ方法ヲ  
採ラントスルナラバ、必ズヤ非常ニ強力ナ  
ル自作農制定政策デナケレバナラヌト云フ  
コトヲ私ハ信ジマスガ故ニ、只今ノ石坂君  
ノ御演說ニハ服從致シ兼ネマス(拍手)

第九條第一項ニ付キマシテ「宥恕スベキ事  
情ナキニ拘ラズ」ト云フ文句ガ非常ニ才氣  
ニ入ラナイヤウニ伺ヒマシタ、是ガ御承知  
ノ通り、信義ニ反シタル行爲デアアルコトハ  
明瞭デアアルト云フ御言葉デアリマス、此「信  
義ニ反シタル」ノ上、「宥恕スベキ事情ナ  
キニ拘ラズ小作料ヲ滯納スル等」ト云フ此  
文句ガ非常ニヤカマシイノダサウデアリマ  
ス、是ハ昨年モ農地法案ノ委員會ニ於テ  
モ、信義ニ反シタル行爲ハ如何ナルモノカ  
ト云フ點ニ、相當質疑應答ヲ重ネラレタノ  
デアリマス、此信義ニ反シタル行爲ト云フ  
字句ハ、小作法案ノ中ニ背信ノ行爲ナキ限  
リト云フ言葉ガアリマシタノガ、今度農地  
法案デ信義ニ反シタル行爲トナッテ來タノ  
デアリマス、又本年本法案ニ信義ニ反シタ  
ル行爲ト云フノガアリマシテ、毎々論議ガ  
重ネラレルノデアリマス、此廣汎ナル意義  
ヲ解スルコトハ、人ニ依ッテ相當異ナル解釋  
ガ下サレル虞ガアリマス爲ニ、茲ニ例示的  
文句ヲ挿入セラレタノデアリマス、然ル所  
小作料滯納等ノ文句ヲ挿入スルハ不都合ナ  
リトノ議論モアリマシタガ、「宥恕スベキ事  
情ナキニ拘ラズ小作料ヲ滯納スル等」ト云フ

文句ハ、何等差支ヘナイト思フノデアリマ  
ス、宥恕スベキ事情ナキニ拘ラズ小作料ヲ  
滯納スルコトハ、信義アル行爲ト認メラレ  
マセヌ、其際小作權ニ付テノ御意見モアッタ  
ノデアリマスガ、現在ノ法制ニ依リマス  
ト、小作條件ノ決定、變更ヲ當事者ノ自由  
契約ニ一任致シテ居リマス、小作條件ガ小  
作人ノ不利益ナル場合ニ於テモ、生活上已  
ムラ得ズ地主ノ意見ニ從ハザルヲ得ヌ場合  
モアルカト存ジマス、其他種々ノ事情ニ依  
リマシテ、小作人ニ不利益ノ場合モアルカ  
ト思ハレマスガ、之ヲ改メルニハ法ノ力ニ  
依ッテ小作契約ノ自由ヲ制限スルカ、將又小  
作地ヲ自作地トスルカ、此二ツノ方法デア  
ルト思ヒマス、全部ノ小作地ヲ自作地トス  
ルコトハ、國ノ經濟ニ於テ之ヲ許シマセヌ  
カラ實行性ガ乏シイ、ソレデ小作契約ノ自  
由ヲ制限スル法律ヲ設ケルコトニナルノデ  
アリマス、是ガ即チ小作法デアリマセウ、  
小作法ヲ制定シ、地主、小作ノ利益ヲ擁護  
シ、耕作者ヲシテ安ジテ農業經營ニ精進ス  
ルト共ニ、農業生産ノ増加ヲ圖ルコトガ國  
家ノ爲メ緊要ナルコトト存ジマス、政府ハ  
現下ノ農村情勢ニ鑑ミラレ、小作ニ關スル  
實體規定ヲ立案シ、次ノ議會ニ提案セラレ  
シコトヲ切望致シマス

以上修正ニ關スル意見ヲ申述ベマシタ、  
ソレ以外ノ條項ニ付テモ意見ヲ申述ベキ  
デアリマスガ、本案修正ガ民政、政友兩黨  
ノ共同修正提案デアリマスル關係上、政友  
會ノ御方カラモ委員長報告ニ贊成ノ御演說  
ガアルコトト存ジマスカラ、私ノ意見申ラ

以上修正ニ關スル意見ヲ申述ベマシタ、  
ソレ以外ノ條項ニ付テモ意見ヲ申述ベキ  
デアリマスガ、本案修正ガ民政、政友兩黨  
ノ共同修正提案デアリマスル關係上、政友  
會ノ御方カラモ委員長報告ニ贊成ノ御演說  
ガアルコトト存ジマスカラ、私ノ意見申ラ

述ベルコトハ此程度ニ止メテ置キマス

次ニ希望ヲ申述ベマス、政府ハ本法案ノ第四條ニ依ル土地收用法適用ノ場合ニ於テハ、特ニ慎重ノ注意ヲ拂ハレンコトヲ望ミマス、此第四條第三項ノ土地收用法適用條項ハ削除センカトモ考ヘタノデアリマスガ、耕地擴張ノ意味ガ含マレテアルノデ、其儘ニ致シタノデアリマスカラ、其意ヲ諒セラ

ル、ヤウ望ミマス  
次ニ農地委員會ノコトデアリマス、農地委員會ノ職能ハ實ニ廣汎ノモノデアリマシテ、設置、委員ノ選任、委員會ノ運用等、若シ其措置ヲ誤ル時ハ爭議ヲ醸成シ、階級鬭爭ヲ助長シ、農村ノ平和ヲ破壞シテ、悔ヲ千歳ニ貽ス惧アルコトヲ特ニ留意セラレ

ンコトヲ望ミマス、附帶決議ニ付キマシテハ速ニ實行セラレルヤウ望ミマス、此際政府ハ本案修正ニ對シ其態度ヲ表明セラレンコトヲ望ミマス、以上申述ベ委員長報告ニ贊成シ、是ト異ル意見ニ反對ノ意ヲ表明スルモノデアリマス

○副議長(金光庸夫君) 杉山元治郎君  
(杉山元治郎君登壇)

○杉山元治郎君 私ハ社會大衆黨ヲ代表シテ、只今議題トナツテ居リマスル農地調整法ニ付テ政府原案ニ贊成シ、委員長ノ報告ノ修正案ニ遺憾ナガラ反對ノ意思ヲ表明スルモノデアリマス、今右坂君ガ法律的ノ立場カラ反對致サレマシタノデ、私ハ少シク角度ヲ變ヘテ反對ノ意思ヲ表明シテ見タイト存ズルノデアリマス

度ノ案デアルト云フコトヲ申上ゲテ置キタ

イノデアリマス、本法案ノ第一條ニハ四ツノ目的ガ掲ゲラレテ居リマス、此四ツノ目的ハ各、關聯ヲ致シテ居リマシテ、ソレノ其目的ガ重要デアルト共ニ、尙ホ其目的ソレゾレガ關係ヲ致シテ居リマスガ、特ニ現時非常時局ニ際シマシテ、此目的ノ中ノ基調ヲ成スモノハ、生産力ノ維持増大ニアルト存ズルノデアリマス(拍手)生産力ノ擴充ガ今日盛ニ叫バレテ居リマスガ、ソレハ單ニ直接戰爭ニ必要ナ軍需品バカリデナク、農

産生産力ニ於テモ亦然リデアリマス、食糧品ガ缺乏致シマスナラバ、軍並ニ國民ノ士氣ニ關係シ、ソレガ延イテ敗戦ニマデ導イタコトハ、歐洲大戰ノ實例ニ依ッテモ明カデアリマス、ソコデ農産生産力ノ擴充ニ必要ナモノハ、色々アルノデゴザイマセウガ、其中デモ最も重要ナルモノハ耕作者ノ生活安定デアリマス(拍手)安心シテ耕作ニ從事出來ルヤウニスルコトガ、何ヨリモ大切デアリマス(拍手)彼ノ封建時代ニハ、農民ノ生活ガ甚シク搾取壓迫サレタト言ハレテ居

リマスガ、併シ尙ホ最後ノ生活權ハ保障サレ、土地ハ子々孫々ニ至ルマデ耕作スルヤウニセラレテ居ッタノデアリマス、然ルニ明治維新ノ土地改革ハ、地主階級ニ有ユル特權ヲ附與致シマシタガ、耕作農民ヲ封建時代其儘ニ置去ツタバカリデナク、慣習小作權ヲ無視シ、民法ノ貸借ト化シテシマッタノデアリマス(拍手)茲ニ今日ノ土地問題ハ胚胎シクノデアリマシテ、年々數千件ニ餘ル小作爭議中、約五割ガ土地引上問題デアリ

マス、斯ル狀態デアリマシテ、ドウシテ安心シテ肥培行爲ヲスルコトガ出來マセウカ(拍手)隨テ生産力モ増大スルコトハ出來ナイノデアリマス、是ハ要スルニ耕作者ニ耕作權ナルモノガ認めラレテ居ラヌカラデアリマス、ダカラ耕作權ノ確立コソガ、耕作者ノ生活安定ノ基礎條件デアリマス、且ツハ生産力擴充ノ重大要素トナルノデアリマス(拍手)然ルニ農地調整法案ハ、社會正義ヲ叫ビ、革新政策斷行ヲ標榜スル近衛内閣ノ農村社會立法タルニ拘ラズ、此點ニ觸レテ居ラヌコトヲ私共ハ甚ダ遺憾トスルモノデアリマス(拍手)

次ニ現下内外ノ社會情勢上、相剋摩擦ヲ

スルコトハ五ニ戒ムベキデ、農村ノ平和保持コソハ洵ニ望マシイコトデアリマス、然ルニ年々數千件ノ小作爭議ガ發生シテ居リマス、是ハ時局柄減少シタト云ヘ、尙ホ恐ラク五十件ニ近イモノガゴザイマス、一部ノ人々ハ之ヲ以テ農民組合運動ヤ、或ハ一部ノ煽動者ノ所爲ノ如ク言ハレルガ、認識不足モ甚シイト言フベキデアリマス、火ノナイ所ニ如何ニ警鐘ヲ亂打シテモ火事ニハナラナイノデアリマス、假令一歩ヲ讓ツテ煽動者ガアツタトシテモ、日本ノ農村社會ニ小作問題ガ起リ得ルヤウナ條件ガナケレバ、決シテ起ラナイノデアリマス(拍手)小作問題ガ起ルト云フノハ、起リ得ル原因ガアルカラデアリマシテ、例ヘバ其主ナル一ツハ小作料ノ高率ニアルト云フコトデアリマス(拍手)仍テ農村ノ平和保持ヲ致スニハ、何トシテモ現行小作料ニ對シ、公正妥當ナル

基準ヲ示シ、爭議ノ根本原因ヲ除去スルコトニ努ムベキデアリマス(拍手)然ルニ政府ハ農村ノ平和保持ヲ望ミナガラ、本法案ニ公正小作料ノ實體規定ノナイコトハ、吾々ノ甚ダ遺憾トスル所デアリマス、併シ内外時局ハ重大デアリマス、私共ハ實體規定ヲ入レマスル小作法ノ制定ハ姑ク將來ニ俟テ、此貧弱ナ案デアツテモ通過致シマスナラバ、耕作者ノ爲メノ一歩前進デアリ、又運用宜シキヲ得レバ、相當ノ功績モ舉ゲ得ルト云フ政府ノ言明ヲ信賴シ、私共ハ此政府原案ヲ最小限度ノ案トシ贊成スル所以デアリマス(拍手)故ニ此政府原案ニ對シマシテモ、次ノヤウナ希望條項ヲ附シテ居ルノデアリマス、之ヲ申述ベマスナラバ

一 近キ將來ニ於テ耕作權並ニ公正小作料等ノ實體規定ヲ含ム完全ナル小作法ノ制定ヲ爲スベシ(拍手)

二 舊慣永代小作ニ付テハ來ル更新期マデニ單獨法ヲ制定スベシ(拍手)  
三 現下統制經濟ノ線ニ沿ヒ農村土地ノ共同管理又ハ共同經營ニ邁進スベシ(拍手)  
四 自作農創設維持ニ付テハ今一段ノ研究ヲ爲シ從來ノ如キ不成績ヲ繰返ヘサヌヤウニ爲スベシ(拍手)  
五 小作農ノ耕地引上ニ際シテハ單ナル法文上整備セルコトニ依ラズ能ク内容ノ具備ニ留意スベシ(拍手)  
六 小作官並ニ裁判官ハ職權強化ニ伴ヒ民意ノ壓迫職權ノ濫用ニ陥ラザルヤウ留意スベシ(拍手)

七 農地委員會ハ本法草案中ノ眼目トモ言フベキモノナレバ公選ヲ行ヒ公平妥當ナル代表者ヲ選任スルヤウニスベシ、(拍手)

然ルニ政民兩黨ノ修正案ヲ拜見致シマシテモ、亦委員會ニ於テ其修正ノ意見ヲ拜聽致シマシタ時ニモ、別段原案ト内容ノ大シク變化ノナイモノデアリカラ贊成セヨト云フヤウナ御言葉ガアツクデアリマス、併シ吾々ハ左様ニ解釋スルコトガ出來ナイノデアリマシテ、此修正ガ地主的修正デアルト云フコトヲ申上ゲタイノデアリマス(拍手)ナゼナラバ、吾々ニ配ラレタ所ノ岐阜縣ノ農事協會長デアリ、大地主デアル所ノ上松某ノ「農地調整法ニ對スル修正意見陳情書」ナルモノヲ見マスナラバ、此陳情書ト今回ノ兩黨ノ修正ト餘リニモ符合シテ居ルト云フコトデアリマス(拍手)是ガ地主的修正デアルト申シテ何ノ間違ヒガアリマセウカ、ダカラ如何様ニ説明セラレヤウトモ、原案ガ相當根本的ニ修正歪曲サレタモノデアルト認め、此修正案ニ吾々ハ贊成スルコトガ出來ナイノデアリマス(拍手)今二三ノ點ニ付テ其理由ヲ申述ベテ見タイト存ジマス

第一條ノ修正ニ付テハ、先程石坂君モ御話ニナツタヨウニ、アノ原案ノ中ニ既ニ盛ラレテ居ルノデアアルカラ、別段入レナクトモ宜イ程ノモノデアアル、併シ入レラレテモ宜イト云フコトデゴザイマシタガ、私共モ暗裡ニ入ッテ居ルノデアアルカラ、別段ソレガ入レラレタカラト云ツテ文句ヲ言フノデナイガ、若シ互讓相助ノ精神ニ則ルト申シマ

スナラバ、本當ニ其精神ガ活カサレルヤウニ、私ハ此場デ希望シテ置キタイ、先程土屋議員カラ、農村ハサウ云フヤウニ行ハレテ居ルト云フ御話モアツタケレドモ、一體今日マデ實ハ不作ノ爲ニ非常ニ困ツタ場合ニ、地主ノ方面カラ、今年ハ不作デアアルカラ負ケテヤラウト云フコトヲ、三年ニ一度デモ言ウテ出タコトガアルデアラウカ(拍手)私共ハ遺憾ナガラサウ云フ實例ヲ聞クコトハ少イ、絶無トハ言ハナイ、稀ニハアルケレドモ、甚ダ少イコトヲ遺憾トスルモノデアラテ、出來ルナラ其精神ヲ活カシテ貰ヒタイト云フコトヲ申上ゲルノデアリマス

次ニ第四條ノ「貸付ノ事業ヲ行フ場合」云々ト云フコトヲ削除致シマシタ點、ソレニ關聯致シマスル所ノ第十三條二項ノ削除ノ點デアリマス、是ハ石坂君モ申サレマシタガ、相當根本的ナ修正デアルト私共ハ考ヘルノデアリマス、農村ノ社會ヲ無視シタ、土地制度ノ理念ヲ骨抜きニシタモノデアルト考ヘルノデアアル、近來農村ノ土地ハ年々約十九万町歩位移動シテ居ルト云フコトデア

ル、是等ノ土地ハ、農村ノ中小地主ガ没落シテ、都市資本家ヤ金融資本家ニ兼併サレツ、アルノデアリマス、斯クシテ農村ノ土地ハ助川參與官ノ言葉ヲ借りテ言フナラバ、職場的農地ヨリ収益財産的ノ農地ニ變化シツ、アルノデアリマス、土地ガ不在地主ニ持タレ、農地ガ單ニ利子生産ノ目的物トナル時、古來カラアル美シイ農村ノ姿ガ破壊サレルノデアリマス(拍手)村ノ土地ハ村ノ者デ持チ、村ノ者デ耕作スルト云フノ

デナケレバ、健全ナ農村ト云フコトガ出來マセヌ、本法草案ノ立案者ノ一人デアリマスル所ノ助川參與官ハ、斯ク申シテ居ルノデアリマス、「土地ノ兼併ト不在地主ノ發生トハ不可避的經濟現象デアアルガ、社會通念ヨリスルモ、農村自體ノ健全性保持ノ上カラスルモ、其存在ヲ維持セネバナラナイ理由ハ見出スコトガ出來ヌ、殊ニ不在地主ノ存在ハ、全ク社會的意義ヲ有セザルモノデアアル、故ニ土地ノ兼併ト不在地主トヲ解消スベキ制度ガ設ケラレバナラナイ」云々ト云フガ、ソレト共ニ更ニ其發生ヲ防止スベキ方途ガ講ゼラレナケレバナラナイ(拍手)斯ク申シテ居ルノデアリマス、斯ル立案者ノ意圖ノ爲ニ、第四條ノ「貸付ノ事業」云々ト云フ文字ガ入レラレタコトハ、ドウシテ見テモ明カデアリマス(拍手)即チ原案ノ第四條ハ、最近ノ土地制度ノ誤謬ヲ是正シ、農村ヲシテ立派ナ共同體ニ立返ラシムルヤウ立案サレタモノデアリマス、然ルニ是等ノ點ヲ削除スルコトハ、土地移動ヲ現狀ノ儘ニ放任シ、益々資本家の不在地主ノ増加ニ拍車ヲ掛ケルモノデアリマス(拍手)農村ノ實情ヲ少シデモ知ル者ナラバ、斯ル修正案ニ贊成スルコトガ出來ナイノデアリマス(拍手)

第二ニ先程修正者カラ、産業組合ニ土地ヲ持タスコトノ心配ニ付テ色々話ガアツタデアリマスガ、今日ノ經濟社會ノ情勢ヲ見マスルト、好ムト好マナイトニ拘ラズ、漸次自由主義的資本主義經濟ヨリ統制經濟ヘト移行シツ、アルノデアリマス、農村ニ於テモ經濟社會ノ一環トシテ存在スル以

上、此線ニ沿ウテ對應シテ行カネバナラヌコトハ勿論デアツテ、茲ニ農村生産部面ノ基本タル土地ノ共同管理、共同經營等ガ必然ニ起ツテ來ルノデアリマス(ノーノー)「ヒヤ」(拍手)否、此必然的ナ傾向ニ動カサレテ、産業組合ニ於テ土地管理、或ハ土地利用組合ガ造ラレ、現在二百十餘ノ組合ガアルノデアリマシテ、即チ本法草案ノ第一條ニ掲ゲマシタ所ノ目的ニ向ツテ、著々ト成功ヲ收メツ、アルノデアリマス、或一部ノ人々ハ、斯ウシタ産業組合ノ土地利用ヲ以テ、何カ左翼的ナコトデアアルカノヤウニ心配セラレラレモアルガ、思ハザルノ甚シイモノデアリマス(拍手)農村社會ハ古來ヨリ共同體トシテ土地ヲ共有シ、共同管理又ハ共同經營ノ經驗ヲ持チデアリマス、ソレヲ唯統制經濟ノ線ニ沿ヒ、近代化シテ行カウト云フニ過ギナイノデアリマス、第四條ノ修正ハ、農村社會ノ共同體トシテノ近代化ヲ妨害スル虞ガ多クデアリマス、吾々ハ此意味ニ於テ委員長報告ノ修正案ニ贊成スルコトハ出來ナイノデアリマス

第三ニ九條修正ノ點デゴザイマスガ、本法草案中臆氣ナガラモ小作人ノ權利ヲ擁護シテ居ルノハ第八條、第九條デアリマス、殊ニ第九條ハ濫ニ解約ヲ爲シ、或ハ更新ヲ拒ムコトノ出來ナイヤウニシタ規定デアリマスガ、併シ後半但書以下ニ於テ除外例ガ設ケラレ、即チ土地使用ノ目的ノ變更或ハ自作ヲ相當トスル場合、其他正當ナル事由アル場合ハ解約モ出來、更新モ拒絶スルコトガ出來ルト云フヤウニナツテ居ルノデア

上、此線ニ沿ウテ對應シテ行カネバナラヌコトハ勿論デアツテ、茲ニ農村生産部面ノ基本タル土地ノ共同管理、共同經營等ガ必然ニ起ツテ來ルノデアリマス(ノーノー)「ヒヤ」(拍手)否、此必然的ナ傾向ニ動カサレテ、産業組合ニ於テ土地管理、或ハ土地利用組合ガ造ラレ、現在二百十餘ノ組合ガアルノデアリマシテ、即チ本法草案ノ第一條ニ掲ゲマシタ所ノ目的ニ向ツテ、著々ト成功ヲ收メツ、アルノデアリマス、或一部ノ人々ハ、斯ウシタ産業組合ノ土地利用ヲ以テ、何カ左翼的ナコトデアアルカノヤウニ心配セラレラレモアルガ、思ハザルノ甚シイモノデアリマス(拍手)農村社會ハ古來ヨリ共同體トシテ土地ヲ共有シ、共同管理又ハ共同經營ノ經驗ヲ持チデアリマス、ソレヲ唯統制經濟ノ線ニ沿ヒ、近代化シテ行カウト云フニ過ギナイノデアリマス、第四條ノ修正ハ、農村社會ノ共同體トシテノ近代化ヲ妨害スル虞ガ多クデアリマス、吾々ハ此意味ニ於テ委員長報告ノ修正案ニ贊成スルコトハ出來ナイノデアリマス

リマス、是デハ何ノコトカ分リマセヌ、右手デ與ヘラレタモノヲ、左手デ奪ッテ居ルヤウナモノデアリマス、今日六大都市ヲ初メ多クノ都市近郊ノ農村ハ、住宅地乃至ハ工場敷地等々ノ爲メ、土地使用目的變更ノ理由ヲ以テ幾多ノ土地ガ引上ゲラレ、又爭議モ頻發シテ居ルデアリマス、又自作農ヲ相當トスル場合ハ、如何ニモ尤ラシイ理由ニ聞エルノデアリマスガ、今日マデ地主ノ土地引上手段トシテ屢、用ヒラレタコトハ多クアルノデアリマス、吾々ハ小作人ニ僅カバカリノ權利ヲ與ヘタカノ如ク見セ掛ケテ、直チニ奪フヤウニシテ居ル所ノ原案其モノニ對シテモ、大ナル不満ヲ持ッテ居ルノデアリガ(ナゼ賛成スル)ト呼フ者アリ)曩ニ言ウテ居ルデハナイカ、更ニ政民兩黨ノ修正案ハ「信義ニ反シタル行爲ナキ限り」ノ上ニ「宥恕スベキ事情ナキニ拘ラズ小作料ヲ滯納シタル者等」ノ文字ヲ入レタノデアリマス、修正者ノ説明デハ、信義ニ反シタル行爲ヲ唯解釋説明シタニ過ギナイト言ハレマスガ、小作料滯納ノ文字ヲ入レタ意圖ハ、察スルニ難クナイノデアリマス、地主組合デハ抽象的ナ言葉デハ困ル、小作料滯納ト云フ明瞭ナ文字ヲ入レテ吳レト云フ要求ヲシテ居ルノデアリマス、收穫量ノ五割五分モ納メル今日ノ高率小作料ヲ、満足ニ納メラレマスルノハ豊年ノ時デナケレバナラス、風水害、旱害、蟲害等ガアレバ、減免ヲ要求シテ居ルコトハ、古來カラノ慣習ニナツテ居ルノデアリマス、若シ斯ウシタ場合、減免ノ相談中、或ハ時期ガ遷延シテ、

即チ一定ノ納期ニ滯納センカ、此場合小作人ハ不作ト言ヒ、地主ハ不作デナシト言フ、斯ウシタ場合ニ此宥恕スベキ理由云々ノ文字ハ、直チニ即チ地主ノ土地引上ノ理由トナルデアラウト云フコトハ明ナ事實デアリマス、私共ハ斯ウ云フ意味合ヲ以テ、遺憾ナガラ修正案ニ賛成スルコトハ出來ナイノデアリマス(拍手)ドウカ政府ハ委員會デ言明致シタヤウニ、原案支持ヲ何處マデモ固執セラレンコトヲ希望致シマシテ、私ノ討論ニ代ヘル次第デアリマス(拍手)

○副議長(金光庸夫君) 服部岩吉君

(服部岩吉君登壇)

○服部岩吉君 只今議題トナツテ居リマス農地調整法案ニ對シマシテ、私ハ政友會ヲ代表致シマシテ、委員長ヨリ御報告致サレマシタ修正案、竝ニ附帶決議ニ對シマシテ贊意ヲ表シ、併セテ其趣旨ト希望トヲ簡單ニ申述ベタイト思フノデアリマス

農地ニ關シマス立法ハ、コ、十數年來或ハ政府ノ提案トナリ、或ハ又議員ヨリノ提案トナリマシテ、本院ニ於キマシテ相當慎重檢討致サレテ來タノデアリマス、ソレ等ノ案ハ審議未了ニ終リ、或ハ又本院ハ通過致シマシタガ、貴族院ノ方デ審議未了ニ終ツタモノモアルノデアリマス、一體農地ニ關シマス立法ニ付キマシテハ、唯私ハ權利義務ヲ織込ダゲケデハ、決シテ解決スベキモノデナイト信ジテ居ルノデアリマス、昔ヨリ地主小作ハ親子ノ關係、即チ温情主義デ農業生産ニ貢獻シテ來タノデアリマス、私ハ古イ思想カモ知レマセヌガ、現在ニ於キ

マシテモ親子ノ關係ヲ徹底サレルコトガ、農業生産ノ維持増進ト、農村平和保持ノ至上ノ策ナリト信ジテ居ルノデアリマス(拍手)併ナガラ我國ノ農村經濟モ亦世界ノ經濟ノ波ニ支配サレマシテ、自給經濟ヨリ現金經濟ヘト進展致シ、且ツ重農主義ハ何時シカ重商工主義ヘト轉換致シマシテ、一方ハ人口ノ増殖ニ依リマシテ耕地ガ狹メラレ、過小農ノ已ムナキ情勢ニ追込マレテ居ルノデアリマス、農村ハ愈々窮地ニ陥ッテ、農村ノ生活ハ常ニ不安勝チナノデアリマス、小作爭議ノ惹起サレルニ至ツタノモ、是ガ主ナル原因デアルト私ハ思フノデアリマス、ソコヘ大正ノ中頃カラ種々ナル農民運動ガ生レマシテ、之ニ禍ヒサレマシテ、處々ニ雨後ノ筍ノ如クニ小作爭議ガ捲起サレマシタコトハ、皆サンノ御承知ノ通りデアリマス(拍手)併シ今日デハ或ル爲ニ利用サレマシタ小作爭議ト云フモノハ無益ノミナラズ、却テ農村ノ純朴ナル平和ヲ破壊スルコトヲ惧レマシテ、斯ル運動モ下火ニナリマシテ、天災地變等ニ因リマス收穫減少ノ場合ニ於キマシテハ、地主、小作間ニ於キマシテ圓滿ニ解決ヲ致シツ、アリマスルコトハ、農村ノ爲ニ洵ニ幸福ト私ハ感ズルノデアリマス、隨テ一時雜草ノ荒地ト化シマシタ所ノ耕地モ、今デハ美田ニ戻リツ、アルノデアリマス、併ナガラ農業生産ノ維持増進ハ、國力ノ發展ト共ニ益、其重要性ヲ持チマス、一面社會組織ハ一日ト複雑化スルノミデ、他ノ産業ヤ商工業ガ立法化サレテ居リマスノデ、農地ニ對シマシテモ亦立法ヲ以テ、地主ナ

(副議長退席、議長著席)

我黨ハ農村政策ト致シマシテ、夙ニ土地ノ開墾、肥料政策ノ確立、自作農創設及ビ維持、用排水幹線工事ノ施設、農村負擔ノ均衡ト負債整理組合、其他諸種ノ政策ヲ立テマシテ、自ラ之ヲ行ヒ、又政府ヲシテ之ヲ行ハシメテ來テ居ルノデアリマス、就中自作農維持ハ耕地ニ對スル所ノ根本策ト致シテ居ルノデアリマス、今回提案サレマシタ農地調整法案ハ、自作農ノ創設維持ヲ主眼トシテ居リマスモノデ、我黨ノ耕地對策ト全ク一致ヲ致シテ居ルノデアリマス、即チ自作農ハ耕地所有ノ合理化デアリマシテ、自作農ノ増加ハ愈々農業生産ノ増進ト確保ノ目的ヲ達シ、併セテ小作爭議ノ如キヲ自然解消ヘト導キマシテ、農村ノ平和ニ資スルコトヲ得ルモノト私ハ確信ヲスルノデアリマス(拍手)其故ニ贊成ヲ致スノデアリマス

私ハ更ニ政府、特ニ農林大臣ニ對シマシテ希望シテ置キタイト思フノデアリマス、法ハ死物デアリマス、之ヲ活カスモ殺スモ運用ノ適否一ツニ懸ツテ居ルノデアリマス、運用ノ宜シキヲ得ルト否トハ、之ヲ掌ル所ノ

人物ニ依リマスコトハ論ヲ俟チマセヌ、關係大臣ハ此點ニ重大ナル關心ヲ持ッテ戴キタイノデアリマス、本法ハ見ルル人ニ依リマシテ、小作者ニ有利ナリト稱スル人モアリマス、又地主ニ有利ナリト稱スル人モアリマス、私ハ斯ル見方ノ中ニ、本法ノ一ツノ大キナ使命ノ存在シテ居ルモノト思フノデアリマス、政府ハ各論者ノ意見ヲ正視サレマシテ、是ガ運用ニ萬全ヲ期サレンコトヲ重ネテ申上ゲル次第デアリマス、尙ホ特ニ都市計畫地區内及ビ都市隣接地帯、及ビ農林大臣ノ指定地等、將來住宅又ハ工場地ニ豫定サレ、農地トシテ將來性ニ乏シイ地區及ビ未墾地ニ對シマシテモ、地方廳ノ認可、監督、取扱上、十二分ノ考慮ヲ拂フヤウ、御配意アラシコトヲ申添ヘテ置ク次第デアリマス、附帶決議ノ第二項ニアリマスル農地委員會ノ委員ノ選任ニ付キマシテハ、一層慎重ヲ期セラレマシテ、農村ノ平和ヲ是ガ爲ニ紊スガ如キコトガアリマシタラバ、實ニ一大事デアリマスカラ、此點モ特ニ御考慮ヲ願フテ置キタイノデアリマス

尙ホ本立法ヲ以チマシテ農村問題ガ解決セルモノトハ、無論御考ニナラウトハ思ヒマセヌガ、畢竟小作爭議ガ起リマスノモ、農業其モノガ經濟的ニ惠マレナイ結果ニ依ルモノデアリマスカラ、縱令自作農ガ相當增加サレタト致シマシテモ、耕作者ノ地位ガ安定シタト云フコトダケデ、農産物價格ガ相當程度ニ維持サレ、又一面農村ト都市トノ國民的負擔ガ、根本的ニ均衡ヲ得ルコトガ出來得ナケレバ、折角ノ自作農創設モ亦崩壞ノ運命ヲ豫想スルニ難クナイト思フ

ノデアリマス  
 農業方面ノ重要性ハ、近ク歐洲戰後ノ交戰國ヲ檢討サレルナラバ明瞭ダト思ヘレルノデアリマス、彼ノ英國ノ如キ重商主義ヲ以テ立國策トシテ居リマシタモノガ、戰後俄ニ農業ヲ重視シ掛ケマシタノハ、相當苦イ經驗ヲ嘗メタ結果ト思フノデアリマス、獨リ英國ノミナラズ交戰國亦皆然リデアリマス、又國力ガ擴大スレバスル程、國防上農村ノ使命ハ益々重キヲ加ヘラレルノデアリマスカラ、世界ノ強大國ハ皆重農主義カラ重工業主義ヘト發展致シマシタ、更ニ重工業主義カラ又重農主義ヘト逆戻リノ傾向ヲ餘儀ナクセラレテ居リマス、此現狀ニ鑑ミラレマシテ、我國現時ノ重大時局ト將來性ヲ達觀スル時、特ニ農村對策ニ力ヲ致スベキモノト思フノデアリマス、農林水産物ノ國際收支ノ地位ハ、無論商工業ノソレニ遠ク及ビマセヌケレドモ、農林水産物ガ純國產デアリマスル點ハ、非常ニ心強ク感ズルノデアリマス、且ツ近年輸出額モ相當増加ノ傾向ヲ帶ビテ居リマスルシ、殊ニ一面小麥増産計畫ニ基キマシテ、小麥ノ如キハ殆ド輸入ヲ防遏シテ居ルト云フヤウナ状態デアリマス、平時ニアリマシテハ輸出ニ努メルト同時ニ、一朝事ノ有ツタ場合ニハ食糧ノ確保ヲ期スルコトガ、國防上國家ガ益、發展スル上ニ於テ最モ必要ダト思フノデアリマス、前ニモ申述ベマシタ都市ト農村トノ負擔ノ均衡ニ次ギマシテ、農業者ノ消費ノ大部分ヲ占メル所ノ肥料ノ如キハ、一日モ早く低廉ニシテ、豊富ニ供給セラル、コトノ策ヲ實現シテ貰ヒタイ、農家經濟ヲ良クシ、

全國農家一戸當リ九反四畝歩未滿ノ過小農ニ對シマシテハ、未墾地ノ開墾ヲ助成シ、一方又農家ノ餘剩勞働力ヲ合理化スル爲ニハ、農産地方ニ適當ナル工業ヲ分散セシメル方途ヲモ講ゼラレタイノデアリマス、更ニ用排水ノ幹線工事ノ施設、及ビ有畜農業ヘノ助成、確固タル所ノ農村經濟更生ノ指導ト助成、時局多端トハ云ヘ、事變下ノ農業生産維持増進ガ事件解決促進ノ一要素デアリマスル以上ハ、之ニ要スル費用ハ戰費ト致シマシテ、決シテ吝ムベキモノニアラズト確信スルガ故ニ、農相ハ軍相ノ概ヲ持チマシテ然ルベシト、國民ハ期待ヲ致シテ居ルノデアリマス  
 最後ニ修正ニ對スル點デアリマスルガ、是ハ土屋君ヨリモ縷々御述ニナリマシタカラ、私ハ抽象的ニ申上ゲマス、私ハ耕地所有ハ、耕作ヲスルコトヲ對象トシテデナケレバナラス、決シテ資本的ナ對象デアッテハナラス、サウ云フ觀念ハ固ヨリ持ッテ居ル、又サウ云フ觀念ヨリ離レルコトガ理想ダト私ハ考ヘテ居ル(拍手)併ナガラ現實ノ問題ハ理想ヲ以テ解決スルコトハ出來マセヌ、故ニ私ハ隣保相助ノ精神ヲ以テお互ニ協調シ、漸次理想ノ境地ニ向ッテ進ムベキダト思フ、此漸進主義ヲ持ッテ居ルノデアリマス、デアリマスカラ、唯唯酷ナ權利義務ノ如キモノヲ挿ムヨリハ、此互讓精神一本デ行クト云フ此立場デ、此法案ガ最モ妙味ノアルモノデアル、此意味合ニ於テ修正案ニ賛成スル者デアリマス(拍手)  
 ○議長(小山松壽君) 是ニテ討論ハ終局致シマシタ、此際政府ヨリ發言ヲ求メラレテ居

リマスカラ、之ヲ許シマス——有馬農林大臣  
 (國務大臣伯爵有馬頼寧君登壇)  
 ○國務大臣(伯爵有馬頼寧君) 先程討論ノ際ニ土屋委員ヨリ、本修正案ニ對スル政府ノ態度ヲ表明シテ欲シイト云フコトデアリマシタノデ、一言申上ゲマス、本法律案ノ修正ニ對シマシテ、政府ト致シマシテハ、此際進ンデ御同意ヲ致シ兼ネマスコトヲ甚ダ遺憾ニ存ジマス、併シ本修正案ガ兩院ニ於キマシテ議決サレマシタ場合ニ於キマシテハ、十分ニ之ヲ尊重致スト云フコトヲ、茲ニ表明致シテ置キマス(拍手)  
 ○議長(小山松壽君) 採決致シマス、本案ノ委員長報告ニ係ル修正ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス  
 (贊成者起立)  
 ○議長(小山松壽君) 起立多數、仍テ委員長ノ報告ニ係ル修正ハ可決致シマシタ、其他ハ原案ノ通り御異議アリマセヌカ  
 (異議ナシト呼フ者アリ)  
 ○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ其他ハ原案ノ通り決シマシタ、是ニテ本案ノ第二讀會ハ終了致シマシタ  
 ○服部崎市君 直チニ本案ノ第三讀會ヲ開カレンコトヲ望ミマス  
 ○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ  
 (異議ナシト呼フ者アリ)  
 ○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ本案ノ第三讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

農地調整法案 第三讀會

○議長(小山松壽君) 討論ノ通告ガアリマス、之ヲ許シマス——川俣清音君

○川俣清音君 簡單デアリマスカラ、自席カラ御許ヲ願ヒマス

○議長(小山松壽君) 宜シウゴザイマス

○川俣清音君 私ハ只今修正サレマシタ本案ニ對シ、遺憾ナガラ賛成致シ兼ネル意思ヲ明ニ致シタイト思フ次第デアリマス、本法ハ本法ノ中第一條ノ「互讓相助ノ精神ニ則リ」ト云フコトノミノ修正デアリマスタラバ、吾々ハ次善案ト致シマシテ賛成致シテモ宜シイデアリマスガ、第四條ハ本法ノ企圖致シテ居リマスル耕地ノ分配ノ適正ヲ期スル重要ナル案件デアリマス、民政黨ノ諸君、或ハ政友會ノ諸君モ、本法ノ中ニ盛ラレテ居リマスル耕地分配ノ適正ヲ圖ル條項ト致シマシテ、本條項ノミヲ擧ゲテ居ルノデアリマス、隨テ此條項ガ削除セラレマスナラバ、自作農ノ創設、或ハ小作爭議ノ調整ノ部分ニ付キマシテハ本法ニ盛ラレテ居リマスガ、耕地適正ノ分配ノ條項ガ削除サレマスル爲ニ、本法案ノ三分ノ一ガ削除サレマシタ結果ト相成ルト考ヘルノデアリマス(拍手)隨テ此重要ナル部分ガ削除サレマシタコトハ、本法案ガ不完全ナル案トナラザルヲ得ナイト私共ハ認識致スノデアリマス、又十三條ノ修正ハ、本法案ガ農村ノ美風ト致シマシテ、自治的解決ヲ圖ルノガ本條項ノ目的デアリマス、隨テ此條項ハ農村ノ自治的解決ヲ圖ル所ノモノデアリマシテ、此條項ガ所謂傳家ノ寶刀トモ認ムベキモノデアリマス、此條項ノ削除ニ依リマ

シテ、本法案ノ圓滑ナル運用ハ出來ナイ結果ト相成ルノデアリマス、隨テ恐ラク農林大臣モ斯ル修正ニ付テハ同意シ兼ネル結果ニ相成ツコトト思フノデアリマス、即チ私共カラ見マスルナラバ、此修正サレマシタ案ハ、農民ノ總意ヲ無視シタル案デアリマシテ、須ラク出直スベキ案ナリト信ジマシテ、最善案ト認メ難ク、反對ノ意思表示ヲ致ス次第デアリマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 是ニテ討論ハ結局致シマシタ、採決致シマス、本案ハ第二讀會議決ノ通り決スルニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

(贊成者起立)

○議長(小山松壽君) 起立多數、仍テ本案ハ第二讀會議決ノ通り確定致シマシタ——日程第一及ビ第二ハ、便宜上一括議題ト爲スニ御異議アリマセスカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、日程第一、臨時通貨法案、日程第二、關稅定率法中改正法律案、右兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス——太田大藏政務次官

第一 臨時通貨法案(政府提出)

第二 關稅定率法中改正法律案(政府提出)

臨時通貨法案

第一條 政府ハ必要アルトキハ貨幣法第

三條ニ規定スルモノノ外臨時補助貨幣ヲ發行スルコトヲ得

第二條 臨時補助貨幣ノ種類ハ十錢、五錢及一錢ノ三種トス

第三條 十錢及五錢ノ臨時補助貨幣ハ五圓迄、一錢ノ臨時補助貨幣ハ一圓迄ヲ限り法貨トシテ通用ス

第四條 臨時補助貨幣ノ素材、品位、量目及形式ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 政府ハ必要アルトキハ臨時補助貨幣ノ外五十錢ノ小額紙幣ヲ發行スルコトヲ得

小額紙幣ハ十圓迄ヲ限り法貨トシテ通用ス

第六條 政府ハ小額紙幣發行高ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ日本銀行ヲシテ政

府預金ノ内之ト同額ヲ區分整理セシメ其ノ引換準備ニ充ツベシ

第七條 小額紙幣ノ發行、銷却及引換ニ關シテハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ日本銀行ヲシテ其ノ事務ヲ取扱ハシム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臨時補助貨幣及小額紙幣ハ支那事變終了ノ日ヨリ一年ヲ經過シタル後ハ之ヲ發行セズ

關稅定率法中改正法律案

關稅定率法中左ノ通改正ス

第九條第二項中「輸入原料品ニシテ」ノ下ニ「製帽用兔毛、」ヲ加フ

別表輸入稅表中左ノ如ク改ム

第五百五十號ノ二ヲ左ノ如ク改ム

五五〇ノ二 金錢登錄機、計算機其ノ他類似ノモノ及同部分

第六百十二號第一項己ノ四ヲ左ノ如ク改ム

己ノ四 モミ屬(トドマツ等)、タウヒ屬(エゾマツ、スプルス等)、マツ屬(紅松等)及カラマツ屬(落葉松等)

イ マツ屬(紅松等)

ロ 其ノ他

厚二百ミリメートルヲ超エサルモノ

ロノ二 其ノ他(丸太及割材ヲ含ム)

第六百二十號中「ヴァナチウム」ヲ「ワナヂウム、鐵」ニ改ム

品	從價	五割
己ノ四	無	稅
イ	無	稅
ロ	無	稅
ロノ二	每立方方メー	四四五
	ト立方方メー	二七〇

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臨時補助貨幣及小額紙幣ハ支那事變終了ノ日ヨリ一年ヲ經過シタル後ハ之ヲ發行セズ

關稅定率法中改正法律案

關稅定率法中左ノ通改正ス

第九條第二項中「輸入原料品ニシテ」ノ下ニ「製帽用兔毛、」ヲ加フ

別表輸入稅表中左ノ如ク改ム

第五百五十號ノ二ヲ左ノ如ク改ム

五五〇ノ二 金錢登錄機、計算機其ノ他類似ノモノ及同部分

第六百十二號第一項己ノ四ヲ左ノ如ク改ム

己ノ四 モミ屬(トドマツ等)、タウヒ屬(エゾマツ、スプルス等)、マツ屬(紅松等)及カラマツ屬(落葉松等)

イ マツ屬(紅松等)

ロ 其ノ他

厚二百ミリメートルヲ超エサルモノ

ロノ二 其ノ他(丸太及割材ヲ含ム)

第六百二十號中「ヴァナチウム」ヲ「ワナヂウム、鐵」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

